

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	大杉年輪塾	愛媛県大洲市	①中桐 万里子 ②若松 進一	①リイト代表・京都大学博士・関西学院大学 講師・国際二宮尊徳思想学会 常務理事 ②人間牧場主	祖母から伝わる尊徳の教え～『自立・自律』への道～	平成24年4月14日
	講演内容				研修成果	
	二宮尊徳の子孫である中桐氏の講演では、講師自らが祖母から聞いた尊徳の実践をわかりやすく話していただいた。勤労・分度・推譲などの尊徳の教えは「生きた思想」であり、今の日本人が忘れてしまったものではないかとの講話をしていただいた。若松氏からは今まで実践されてきたオンリーワンの地域づくり、人づくりの取組とこれからの展開等、落語調でユーモアを交えた思わず引き込まれる楽しい語りの講演をしていただいた。				参加者数:162名 地域の人達に学ぶ機会と喜びを体験して頂きたいとの願いから、地域で過去に若者達の自己啓発の学びの場として戦前、戦中、戦後と開催されてきた夜学の精神を地域住民全体に広げこれからの過疎、高齢化への新たな取り組みにつなげたいとの会員の強い願いで計画致しました。当初の計画では受講者は多くても100名との予想でしたが当日は予想を大幅に上回る162名の参加となり資料が不足し会員から返却してもらい対応いたしました。受講された皆様からも好評で次の夜学への問合せが多くあり、感謝しています。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
2	下野市自然に親しむ会	栃木県下野市	岩渕 成紀	NPO法人 田んぼ 理事長	田んぼの生物多様性	平成24年4月22日
	講演内容				研修成果	
	先生が理事長として活躍されているNPO法人田んぼ(宮城県田尻)の活動拠点の蕪栗沼には、毎年数万羽のカリヤハクチョウが飛来し、その規模は世界中の3指に入る。ここでは、まったく肥料も農薬も使わずに、通常の倍の価格で販売可能な米を一般的な収穫で得ることができる。 東日本大震災後の津波に覆われた水田における除塩の実践などの成果が紹介された。表土を剥いたり、客土ではなく、単純に淡水を導入するだけで、塩分を下げる事ができた。昨年は、従来の1.5倍の米が収穫できたのは、海からもたらされた栄養分(ミネラルと窒素類)の影響であり、震災の影響をプラスに転換する事ができた。				参加者数:42名 水田に多様な生物が生息可能な環境を作り上げることは、一つの文化であるとの認識を得ることができた。しかし、冬季も水田に水を溜めるために必要な市内のため池は、減少傾向にあり、残された環境をいかに復活させるかかの議論のきっかけとすることができた。また、この文化は、次世代に引き継ぐことが重要である。そのためには、本会がこれまでに実施してきた生き物観察会が有効であることを確認することができた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
3	北海道エコビレッジ	北海道札幌市	山田 貴宏	日本大学生物資源科学部 非常勤講師・一級建築士	持続可能なコミュニティモデル	①平成24年4月14日 ②平成24年4月15日
	講演内容				研修成果	
	(1)アメリカやニュージーランドのエコビレッジ事例や、講師の山田氏が自ら設計を手がけた東京都足立区(2007年)や神奈川県藤野町(2011年)の集合住宅の事例の紹介。 (2)山田氏をファシリテーターとして、自然環境条件や社会的意義などの課題を整理し、エコビレッジとしての具体的な住環境のデザイン案のたたき台を作る。				参加者数:36名 (1)世界各地のエコビレッジ事例等を聞くことで、住民が互いに助け合い資源や施設をシェアすることで環境に負荷をかけない暮らしを築いていくことの意義と方法を学んだ。 (2)余市の農地5haをモデルに敷地を歩き、資源や課題を調査整理し、持続可能なコミュニティが、どのように地域や社会に貢献できるかという視点でワークショップを行った。様々な視点での意見をファシリテーターが整理し、課題を抽出していったことで、生産的なディスカッションができた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
4	三谷地区コミュニティ協議会	香川県高松市	辻駒 健二	川根自治振興協議会 会長	みんなが主役のまちづくり	平成24年5月12日
	講演内容				研修成果	
	高齢化で過疎のまち、川根のまちづくりは、行政に頼らないで自分たちで出来ることからやってみよう活動している。川根では交通がなければ自分たちでバスを走らせ、店が閉店すれば自分達で店を経営するというまちづくりを住民みんな一人ひとりが主役になって行っている。住民は人のために働けるという幸せを感じている。行政では条例や制度を柱としているが、従前通りの考え方で過疎が広がるばかりなので、思いを伝え「行政を変えよう」と色々な発信を転じている。自分たちが暮らしてよかったというまちづくりを願っている。				参加者数:180名 川根のまちづくりの活動は、弱点をスタートとして逆の発想で展開している。公共交通のない三谷町の今後の構想として、住民相互の助け合いで暮らしていけるように今から取組む必要を感じた。買い物、病院、休耕田、介護とまちの課題は多いが、ひとつでも解決できることから取組もうと考える。自分たちのまちを「あんしんして暮らせるまち」にするためのよい研修になった。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
5	NPO法人 明倫NEXT100	鳥取県倉吉市	田中 章雄	株式会社ブランド総合研究所 代表取締役社長	地域ブランドによる地域活性化について	平成24年5月20日
	講演内容				研修成果	
	全国47都道府県(1000市区町村)のインターネットによる地域ブランド調査を基に行われた、全国各地で成功した例をあげ、地域のブランド力の特徴を紹介。地域活性化につなげるにはどうしたらよいか、何が必要なのか、商品開発やブランド戦略について講演された。				参加者数:78名 ブランドとは、商品と組織に対する消費者からの評価と期待である。先入観をなくし、相手側が何を求めているのか、ニーズに合わせて徹底した工夫を重ね考えていく。ひとつのシンボルに、なるべく多くのものの魅力をまとめ、地域らしさ・作り手のこだわり・体験と感動をプラスすることで、自分たちにしかならない強いブランドを確立していく。ニホンミツバチの蜂蜜のブランド化・特産品の開発に取り組んでいき、いつまでも住み続けることのできる地域をつくりあげていく。	

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
6	NPO法人 和田重次郎顕彰会	愛媛県松山市	①松浦 宏之 ②舟津 圭三	①太成学院大学教授 ②日本人マッシャー(犬ぞり使い)	愛媛出身のアラスカ開拓者 和田重次郎顕彰活動報告会	平成24年5月27日
	講演内容			研修成果		
愛媛出身のアラスカ開拓者 和田重次郎が活躍したアラスカ、カナダでも顕彰活動が活発に展開されていることから、その活動内容について報告した。舟津講師からは、フェアバンクスにて、重次郎が開拓した道を使った犬ぞりレース「ユーコン・クエスト」の前夜祭で、フェアバンクス市長等も参加した、和田重次郎についてのパネルディスカッションの様子が紹介された。また、松浦教授からは、一昨年、セワード市で開催された、和田重次郎の偉業を称えた記念イベントの様子が紹介された。この記念イベントでは、セワード市長をはじめ、多くの著名人が参加し、市を挙げて、和田重次郎の顕彰活動が実践されていることが語られた。					参加者数:110名 NPO法人 和田重次郎顕彰会が結成されて5年目になることから、これまでの活動について会員以外の人にも報告することができた。また、重次郎が活躍した、アラスカ、カナダでも活発に顕彰活動が展開されていることを周知することができた。 今後は、より多くの人に和田重次郎を知ってもらうための各種事業の展開とアラスカ、カナダとの和田重次郎を架け橋とした交流の進展を図っていくが、そのためには、人的・財産的基盤づくりが必要である。今回の報告会の開催を通して、賛同者も募ることができ、今後のより一層の組織の充実を図ることができた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
7	きらり水源村	熊本県菊池市	①大津 愛梨 ②ゲルト・パップフェンホルツ	①NPO法人九州バイオマスマフォーラム理事 ②農村集落コンサルタント	農村資源で地域再生エネルギー～ドイツのバイオエネルギー村プロジェクトに学ぶ～	平成24年4月26日
	講演内容			研修成果		
地域にある資源を活用して電気と熱を自給するドイツのバイオエネルギー村プロジェクト。ユーンデ村のバイオエネルギープロジェクト推進担当ゲルト・パップフェンホルツさんの講演と、今年1月にドイツエネルギー村の視察に行かれた大津愛梨さんの現地報告を兼ねた講演会(大津氏はパップフェンホルツ氏の通訳も兼任)。 講演は、バイオエネルギー村の誕生から広がりまで、参加住民の意識の変化、プロジェクトの障壁と成功の鍵、日本の農村における可能性などをポイントとした内容。 バイオエネルギーについての知識習得と水源地区(または菊池市)でのバイオマスエネルギーの取組み実現への可能性を地域住民と共に考え、討論するきっかけづくりのための講演会。					参加者数:65名 地域住民はもちろん菊池市、合志市、山鹿市、玉名市、阿蘇市、遠くは佐賀県から予定人数を超える65名が参加。エネルギー問題に関する取組みに多くの方が感心があることを実感した。林業・酪農・食肉加工・食品販売関係者、NPO・行政・マスコミと多業種からの参加があった。 バイオエネルギーの技術的な側面よりも、地域住民の連携や組織についてや住民の参加意識を高めるための苦労話やノウハウを中心に講演いただいた。エネルギー先進国のドイツでも住民参加のプロジェクトを推進することの難しさや、農村では日本と同じような問題を抱えている状況などを知りドイツのユーンデ村が身近に感じられ、エネルギー村がより具体的なイメージが浮かんだことでプロジェクトの可能性を参加者で共有できた。質疑応答でもプロジェクト推進の具体的な質問があり、予定終了時刻を超えて講師・参加者共に有意義な講演が開催できた。 講演後、地域ではエネルギーに関する会話が日常的に話す雰囲気生まれ「私たちにも何かできる」という機運が高まっている。地域主体のNPOとしては、講演会を契機として「環境を考えたエネルギーの取組み」をスタートする予定。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
8	高子沼を楽しむ会	福島県伊達市	小林 敬一	東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科教授	高子二十境の魅力を探る・・・これからの地域づくりに向けて	平成24年8月11日
	講演内容			研修成果		
「時を越え風光る高子は桃源郷一土地に照らし『永嘉編』の景観を読む」と題して、高子二十境を詠んだ熊坂三代の漢詩を解説し、また谷文晁の墨図と現在の景観との関連性を説明して、二十境の景観の素晴らしさ、過去と未来をつなぎ、今後に生かすことの大事さを話された。また「風を起し地域を耕し種を蒔く一子々孫々遺し伝えるものを考える」と題して、地域づくりの前提条件として、名勝的景観保全の課題、環境理解の課題、情報時代の地域開発の課題等を挙げ、全国的にも稀有な「詩の生まれるまちづくり」の今後の方向性を示唆された。					参加者数:183名 高子二十境の墨図を絵柄にした伊達市保原市民センターの緞帳を観ながら、講演をおして、郷里の歴史的、文化的な遺産である「高子二十境」の景観の素晴らしさについて、出席者には理解を深め、さらなる関心を高めることができた。 今後の地域づくりとして、高子二十境巡りのウォークコースの整備をすすめ、漢詩文学の詩の生まれるまちづくりにむけて、地域住民が協力していこうとする強い動機づけができたことが大きな成果である。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
9	NPO「豊川をヨイショする会」	秋田県秋田市	①阿部 千春 ②野村 崇 ③大野 憲司	①函館市縄文文化交流センター 館長 ②北海道北方博物館交流協会 常務理事	豊川油田とアスファルト考古学	平成24年5月12日
	講演内容			研修成果		
1.「北海道におけるアスファルト遺物の特徴と分布」 講師:阿部 千春 2.「秋田県内の天然アスファルト使用例とその遺物特性」 講師:大野 憲司 3.「アスファルト考古学の創始者『佐藤博蔵』」 講師:野村 崇					参加者数:110名 縄文時代におけるアスファルトがどのように利用されていたのかを、出土した遺物の写真を提示しながら、一般の方に分かり易く説明をしていただきました。北海道から秋田までの地域において天然アスファルトを縄文人が日常生活の中で有効に利用していた状況を理解する事ができ、アスファルトの重要な供給地の1つであった豊川油田の地質遺産としての価値を、一般の方々にも広める良い機会となりました。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
10	武佐学区まちづくり協議会	滋賀県近江八幡市	高橋 寛治	高野山大学 客員教授	先人の遺産「武佐宿」を活用した地域活性化	平成24年6月15日～16日
	講演内容			研修成果		
初日の15日(金)は座談会形式で開催。冒頭、講師より「農山村の多様性の復活」等5つのキーワードを提案し、自由討論を行った。特に50年後の地域を見据えて「地域の大事な経済」「小さな自治」というキーワードを主眼に地元を抱える諸課題等を話し合った。 二日目の16日(土)は講演会形式で開催。柳田園男の思想から読み取る地域の可能性について講演を展開し、高野町で取り組んでこられたまちづくりをパワーポイントで説明。小さな自治をキーワードとして地域の諸課題解決の神髄に迫った。後半、大阪国際大学の学生が研究した様々な空き家活用方法を提案し、若者の視点から地域課題の解決策にも迫った。質疑では地元の抱える身近な諸課題が多数質問された。					参加者数:延103名 初日は地元内外からたくさんの方が集まり、腹を割った話し合いができた。近隣地域の同じような諸課題をもった人々と課題の共有化を図ることができ、人と人、地域と地域を繋げる機会となった。 二日目は地域の財産である広済寺ではじめての地域づくりイベントとして開催することができた。「人を変えるのは人である」ことを念頭に、利便性を追求することを見直し、何でも自由である社会から一歩離れた地域内の循環維持可能社会の実現に向けた新たな視点を持つ機会となった。 先ずは場所づくりから始めていくこととした。その場所として先人の遺産である「武佐宿」の街並みを活用し、空き家をまちづくりの拠点として利用できる仕組みを、地域住民自らの力で創っていくように今後も活動を続けたい。	

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
11	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブ ライフ・クラブ・ナルク 倉敷	岡山県倉敷市	佐田 宏	ホスピタリティ教育研究所 代表	サービスの時代からホスピタリティ社会へ	平成24年7月21日
	講演内容				研修成果	
講演は、ホスピタリティ(お互いに思いやる心)の視点から「人を迎え入れる人になる」と題して行われた。 サービスとホスピタリティの概念の違いを説明後、品質管理(TQC)という基本的なことが出来て、その次に期待価値(顧客満足・従業員満足)ができ、そしてようやく顧客を感動させることが出来る。顧客感動はその土台が出来なければ成り立たない。ある運送会社の事例を基に参加者全員参加で考えた。 次にホスピタリティ・コミュニケーションとして、自分達の日常をチェックし基本的な挨拶・笑顔・視線を勉強し、さらに「聞き上手」になるための秘策など事例を交えて説明され、まとめとして、共創の喜びにつなげていこうと呼び掛けられた。					参加者数:42名 参加者は街づくりに取り組んでいる方が多く、倉敷という観光地の土地柄「おもてなし」を勉強したいという方が多かった。特に体系的に勉強する機会がないので、講師と共に参加者自身で日常行動に照らしてみても考えられたことがとても良かった。挨拶をしていたつもりだったが、全く挨拶の意味を成していなかったこと。「与える心」だけでなく「受け入れる心」も必要だと教えていただきとても参考になった。昨今のいじめ問題に少し話題が触れたとき、「聴き上手」の大人が一人でもいたら・・・と考えさせられた。 または是非訪れたいと思っていた「感動サービス」を地域に広めていきファンづくりと言う課題に取り組んでいきたい。	
12	NPO法人霧多 布湿原ナショナル トラスト	北海道浜中町	①渡辺 靖夫 ②小林 絵里子 ③大坪 俊裕	①自然画家 ②自然画家 ③写真家	自然画家による住民参加型ワークショップを通じた啓発事業	①平成24年7月1日 ②平成24年7月8日 ③平成24年7月22日
	講演内容				研修成果	
【渡辺靖夫】鳥の観察を行いながら、鳥の生態や行動の紹介をすると共に、鳥の絵を描く際のコツやスケッチ方法などの講座を行った。 【小林絵里子】身近な自然をテーマに参加者事に素材を設定し、スケッチの方法を学んだ。 【大坪俊裕】「一枚の写真が出来るまで」をテーマに、写真を撮る際の構図選びや角度などの設定の仕方を学んだ。					参加者数:55名 50点の作品が展示され、期間中約3,000名の方にご覧いただくことが出来た。来場した地元住民からは、「ここにある作品を通じて見てみると、良い場所に住んでいると改めて実感した」といった声も聞かれ、当初目的としていた霧多布湿原の価値の再発見を行うことができた。またワークショップでは、絵や写真で表現することで今までにない目線で見自然を見る機会となり、自然の素晴らしさや身近な自然の新たな一面を認識する良い機会となった。	
13	愛山地域づくり 協議会	北海道愛別町	伊東 徹秀	コピーライター・地域プランナー等	地域力の向上を目指して	平成24年6月29日
	講演内容				研修成果	
1. 道内市町村の地域づくりの状況。特にイベント的な町おこし事例－上川町のラーメン日本一・更別村でのトラクター軌馬 2. 地域人口と活力について－開拓時代の地域集落人口と現在。集落の少数精鋭人口による町おこし。 3. 地域素材の発掘視点－自然環境を曜日に見分ける(例)日＝太陽、夕日、朝焼け・月＝夜空、星、澄んだ空気・水＝湧き資源、石狩川など、地元、足元を見分けることによる再発見。 4. 地域と人間－自然、社会、文化、環境を作り上げた人間の成せる行為から、未来も同様に人間の働きかけで地域変革が生まれる。そのことにより地域展望に合わせた新たな地域づくりが図られる。 5. 社会のルール－地域がどん底になれば、どこから救いの手が差し伸べられる。発信しない限り誰の目にも止まらない。情報の重要性。 7. 祭りと伝統文化－地域の祀りと共通する文化ととらえ伝承維持と里帰り、定住にも関わるものだ。					参加者数:70名 ①少子高齢化の進展著しい1集落での開催にもかかわらず集落人口のおよそ20%以上参加。講師のユーモアに富んだ話に耳を傾けた。集落が関心を持ってくれたことが大きい。②協議会での初発の事業として、協議会認知の機会として住民並びに地区外に広めることができた。③地区外参加者も総参加者の40%を占めるなど、地区内外に活動を印象付けることができた。④地域資源の発掘の視点においては、もう一度足元を見つめ普段見慣れたものも、見慣れていない人にとっては有効な資源である。⑤情報発信の重要性を住民それぞれが認識できた。地域を発信する方策を考えるきっかけになった。	
14	えべつ協働 ねっとわーく	北海道江別市	延藤 安弘	愛知産業大学大学院教授他	高齢者は「まちづくり」の主役～大麻団地における高齢者の生きがいを重視したまちづくり～	平成24年6月2日
	講演内容				研修成果	
「サンゴールドヴィラ自治会」の有志による、「高齢者が生き生きと暮らすことが出来るまちづくりを行いたい。そのための勉強会をしたい」との要望を受け、講師が全国の事例紹介等を行った。講演では、「まちの縁側」を活用した地域交流の事例を中心として、自分たちで地域を元気にしていく過程を紹介された。 後段では、参加者によるグループワークを行い、講演会で印象に残ったことを踏まえて、「こんな縁側がいいな!」のアイデアを出し合い、グループ毎にまとめ、発表しあった。					参加者数:50名 北海道では本州と同じような縁側は無理であっても、「気軽に集い、交流できる場」としての「縁側」は欲しいという意見があり、ワークショップでも、自分たちが集いたい「縁側」についてのアイデアが多く出された。 講演会のみではなくワークショップを行うことで、同じ団地に住みながら交流のなかった人同士が、一緒に「縁側」づくりについて真剣に考えることになり、自分たちでも無理なく出来る「まちづくり」の可能性に気付くきっかけになった。このきっかけを大切にすることで、自治会の方が主体となった本格的なまちづくりが始まるのが期待できる。そのために、当NPOでも支援を引き続き行っていきたい。	
15	消費生活実践 グループ in秋 田	秋田県秋田市	①小豆川 勝見 ②森田 貴己 ③竹野内 真理	①東京大学大学院総合文化研究科環境 分析化学研究室助教 ②水産庁増殖推進部研究指導課研究管 理官 ③翻訳家、「低線量被曝者の会」共同代 表	放射能学習会:自分で判断するために	①平成24年6月24日 ②平成24年7月22日 ③平成24年8月28日
	講演内容				研修成果	
1回目の講演では、小豆川先生に、放射線や放射能とはどういうものか、「測る」ということで何が分かるのかといった内容について、分かりやすい図や実際の道具を使って、数字や音等で見える形で説明していただき、放射能の基本知識を学んだ。 2回目の講演では、放射能による海の汚染や日本海側への影響はどうなっているのか、魚をばいじめる食に焦点をあてて、実際のデータをもとに説明していただいた。講師の森田先生は説明の際に必ず根拠を示されるので、分かりやすい説明であった。 3回目の講演では、広島の医師やアメリカの研究結果をもとに、放射能の影響についてのデータや考え方、「命の環境」の大切さについて、竹野内先生に翻訳家という立場からお話しいただいた。 また、各回では、質問時間を多く取り、参加者の疑問を解決するよう努めた。					参加者数:87名 放射能の基本について専門家からしっかりと学ぶことができ、質問の時間を充実させたことで、参加者が情報収集を積極的にするようになった。講師の方々はその場の立場でお話しされたので、市民が安全・安心して生活できる、「住みよい秋田」を作る、という目標に達するのは難しいようであったが、この学習会の「自分で判断できる」という、目標は達成されたように感じた。 自分の考えを述べ、他の人の話を聞くことで、賛成派も反対派も、皆が一生懸命、実際に避難者の声を聴くこともでき、放射能に関する一連の問題は難しいものだというところも、改めて感じた。 放射能に対して、賛否どちらでもない中立な立場での学習会は今までなかったため、今後も続けてほしいという要望が多く、これからも継続して実施していきたいと考えている。	

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
16	NPO法人 奈良国際協力サポーター	奈良県奈良市	①阪本 日出雄 ②倉又 孝	①㈱バデコ・国際コンサルタント 他 ②㈱国際開発アソシエイツ・国際コンサルタント 他	奈良の地域性を活かした国際協力による「新しい公共」を担える人材育成と組織づくり。	①平成24年10月21日 ②平成24年11月18日
	講演内容			研修成果		
<p>①講義に先立ち、奈良に拠点をもち国際協力を行っているNGOであるアフガン孤児支援・ラーラ会の柄子氏により、アフガニスタンでの支援活動の報告があった。阪本氏の研修は、奈良の国際性を活かした国際協力と題して行われた。なぜ国際協力が必要なのかという前提を、先進国の視点と途上国の視点の双方から捉えなければならぬとし、地域資源が重要なポイントであることが示された。また、途上国での資源活用の事例として、観光の活用やコミュニティ・ツーリズム等、阪本氏が活動しているモロッコやモンゴル等の事例を交えて説明された。ワークショップは、3グループに分かれ、国際力の必要性、貧しい国と豊かな国の違い、地域資源について議論し、阪本氏の指導と総括をいただいた。</p> <p>②奈良発のNGO先進事例として(社)奈良まちづくりセンターの岩井氏により、アジア歴史都市間のNGO連携に関する報告があった。倉又氏の講義は、先ず自身の経歴より、調査・計画の業務から、JICAボランティア、現在力を入れている専門派遣や途上国留学生への支援についての話しがあり、開発援助をめぐる国際潮流では、国連ミレニアム開発目標において、達成状況の危惧と共に、ODA出資国同士の協調の必要性が語られた。また、国際協力におけるNGOや民間資金の役割が年々増しており、ODAに加え民間支援を活用したNGOの活躍と、BOPビジネスによる開発援助も期待されていると報告があった。具体的な事例では先進的なNGOのマネジメントを含め紹介があった。</p>			<p>①参加者数:25名 講師より示された、①なぜ国際協力をするのですか?②貧しい国はどのようにして貧しいのですか?日本はどのようにして豊かなのですか?③地域資源とは何ですか?と言う3つの問題提起とその回答を、受講者自らが模索することが出来た。事例では、講師が実践しているモロッコ等の村落観光の開発について、まさに地元の人々と共に考え、行動し、地域資源を活かそうとするプロセスを認識できた。昨今の新興国等による国際協力は、代償を得るための国益重視のばらまきにより、現地は貰うことに慣らされていると言う。これは何時までも自立できない悪影響を与えかねない。ワークショップは受講者自らがこの問題を考えるシミュレーションになった。地域資源を活かし自らが考え、自立し、抱えている問題の解決策を得とすることが重要であると教えられた。</p> <p>②参加者数:25名 研修参加者は今回の講義内容により、現在の国際協力の状況を客観的に把握することができ、国際協力を自分たちの立ち位置を見定めることが可能になったと思われる。年々削減されるODA予算に比べ、民間活力により行う国際協力は、OBPビジネスを兼ねた開発支援が成立するチャンスがあることや、先進NGOの経営概要について学ぶことが出来た。NGO個々の持つ特質を活かし、国際協力を行う多くの事例は、自らに置き換えて何ができるのか、地域資源をつきつめて自問自答し実践する必要がある。自分がやりたい事を見つけ出し、受け手が喜び、かつ生業も成立するようなNGOであるべきであり、その為には、もっと国際協力について真剣に取り組み必要があると教えられた。</p>			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
17	特定非営利活動法人 サン・はぎわら	岐阜県下呂市	幸島 美智子	元警視庁警察官・子育てアドバイザー	子どもたちの未来 共に考えてみませんか ～親と子どもたちの絆をよりいっそうふかめるために～	平成24年7月14日
	講演内容			研修成果		
<p>1. 子どもたちを取り巻く問題 ①非行並びに犯罪被害の現状 ②虐待がもたらすもの ③全国的に増え続ける校内暴力 ④いじめ問題(いじめ相談ダイヤル0570-00-78310) 2. ネット・ケータイの問題点と対応 ①子どもたちが利用しているサービス ②ケータイ依存の現状 ③「出会い」による犯罪被害(加害) ④ネットいじめ ⑤ネットで広がる若者の薬物汚染 ⑥これからの対策 3. 子どもの正常な発達と段階的な親のかかわり ①0歳～3歳までの親のかかわり ②子どもの正常な発達を知る(思春期の対応) ③規範意識の育み方 ④自己肯定感(自尊心)の育み方 4. 真の大人に育てるために ①本物の生きる力とは(問題解決能力) ②自立のために親がやるべきこと(判断力と責任力) ③他人とのかかわり方は母と子のかかわりが基本(コミュニケーション能力) ④情緒を育むためには ⑤みんなが我が子と思う子育て ⑥「ありがとう」の言葉 以上のような内容で進められましたが、特に、子どもが小さい時から親は「質問の仕方」を意識することで ①ハッキリ自分の意見が言えるようになることや ②何が危険なことなのか、具体的な危険を身をもって知ること ③そういったイメージトレーニングが必要なことを述べられた。</p> <p>今、問題になっている「いじめ」についても具体的な話をされ「いじめられる子どもには問題はない」ことを強調された。今は「憂さ晴らしのいじめ」であり自分より弱ければ誰でもいいという感覚なのだという。そのような感性を抱く根本には、子どもの成績が親の愛情のパロメーターになってしまっていることや思春期の子どもに対する親の心構えに問題があり「子どもの気持ちをくんでやる」という基本的なことが欠如するから「家庭から愛されていない」と感じる子どもが問題を起こす原因となっている。など。 子どもが「二面性」を持たないように、家族への「帰属意識」を持てるようにするには、「いつも言葉をかけてあげる態度」や「ありがとう」という言葉が持つエネルギーの重要性を強調された。</p>			<p>参加者:60名 今回はNPO法人サン・はぎわらが、一番の柱として掲げている「地域でのコミュニケーションづくりに支えられた子育て支援」という観点から幸島先生の講演会を開催しましたが、共済として力を貸していただいたPTAや保護者会の方々のご協力をいただいたことを嬉しく思うとともに、合併前から「ふれあいの地域づくり」を合い言葉にしてきたまちづくりの基盤が更に強固に再認識された点が成果と言えます。残念に思うことは、折からの大雨による停電や山崩れなどが発生して、当初予定していた聴講者数が少なかったことです。講師の幸島先生もJRが不通となったため中津川までタクシーで出られて熱海市へ帰られました。アンケートの結果にもありましたが、参加された方は改めて中山間地においてもこのような課題が山積していることを再認識していただけのよい機会となりました。組織の発足以来、継続してきたテーマとしての確認の為の場を持つことができました。今後に繋げていきたいと思えます。</p>			

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
18	特定非営利活動法人 カタンニュー・クラブ	沖縄県八重瀬町	①永田 耕一 ②上原 美紀男 ③内村 宏	①つるの里クリニック理事 長 ②日々草普及家 ③沖縄アロエ代表	日々草で町おこし、日々草を探る	①平成24年8月13日 ②平成24年8月18日 ③平成24年8月25日
	講演内容			研修成果		
元気な長寿を願い「日々草」を活用した健康法を解説し又「日々草」が長春花として可憐な花を咲かせ観賞用として花一杯運動に活用できる事。 なお講師(永田)は医師として治療実績の実例を紹介し「自分の健康は自分で守る」ことの大切である事を講義した、他希望者には「栽培方法」や活用の仕方、葉、茎の粉末の作り方、お茶のつくり方などを学ぶ。 二日目 (1)日々草の栽培方法 特に沖縄以外の他府県では冬場は枯れるので1年草とされているが、沖縄県では年中栽培可能で多年草として楽しむことができる。その上で種蒔きの時期、方法(プランター利用を含めて)と土や水やりのこと、移植のことなどを語る。 (2)種子の採取の仕方、保存方法などは教材にはないので実例を示して講義 三日目 (1)日々草からの青汁の抽出方法 分量(葉の枚数、水、ミキサーの回転タイムなど)について (2)保存方法(1日分の分量の場合の保存の必要はない)は (3)服用方法(1回分は厚さ3ミリが目安)は (4)葉茎の感想粉末と保存方法 (イ)感想の仕方 (ロ)粉末の作り方 (ハ)保存方法などについて (ニ)服用方法(1日分は1日当1グラム未満、それ以上は飲まない)について (5)温湯としての飲み方は (6)その他。日々草酵素の作り方 以上は教材5ページから16ページを説明する方法で講義した。			参加者数:80名 1.「日々草を楽しむ」の発刊により継続学習資料を作成した。 1.講演記録(DVD)を作成した 1.県外遠征期に沖縄から提供するシステムを提案した 1.沖縄日々草研究会の設立により継続的普及活動の基盤をつくりだした。 以上大きな成果を得ることができた。			
19	日吉津「なまはげの会」	鳥取県日吉津村	長谷川 義史	絵本作家	地域で広げよう、子どもと楽しむ絵本の世界	平成24年7月22日
	講演内容			研修成果		
人気絵本作家、長谷川義史さんによる絵本を使ったパフォーマンス。子どもたちから大人まで人気の絵本を読み聞かせたり、筆と墨を使って実際に絵を描きながら物語を紹介したり、会場の子もたちを題材に似顔絵を描きながら、家族や地域のつながりの大切さを訴えた内容であった。特に、東日本大震災で被災した子どもたちや学校・地域へのボランティア講演の経験談や、ご自身の生い立ちを題材にした絵本や歌の紹介は、子育ての大切さや家族の素晴らしさを感じられる研修会となった。			参加者数:150名 参加者から大好評を得て、以下のような点について、大きな成果をあげることができた。 ①子どもに絵本の楽しみを体験させることができた。 ②子どもの読書への保護者の理解と関心を高めた。 ③親同士・子ども同士のふれあいや、子育てを通じた地域のネットワークづくりができた。 ④新設されて1年半ほどの「子ども図書館」を地域に開かれた施設として、その活用を広げることができた。 ⑤おやじの会が主催し、地域へアピールすることで、若い世代に父親の子育て参加を促すことができた。			
20	新宮市みんなの協議会	和歌山県新宮市	鈴木 恵子	ボランティアグループ すずの会 代表	協働のまちづくり 地域の絆を紡ぐ ご近所パワー	平成24年7月13日
	講演内容			研修成果		
平成7年に親の介護経験のある鈴木恵子さんとPTA仲間5人で立ち上げたボランティアグループ「すずの会」が実践している、「気になる人」の支援として何が出来るのか、すずの会・地域の人たち・関係機関で実践している事例を挙げて分かりやすく説明していただいた。また、介護の現場の社会現象として、認知症の母親の介護の為仕事を辞めてしまう息子がいること、仕事をやめた場合親の年金しか収入がなくなる厳しい現実等を紹介された。			参加者数:47名 参加者は、みんなの協議会委員、福祉委員、民生委員、町内会長、市職員、市民等で講師の実践内容による説明は分かりやすく、最後の市民の質問コーナーにおいても自ら鈴をつけて周りの人に自分に気を向けてもらう努力も必要ではないか等の意見が出た。			
21	特定非営利活動法人 東鳴子ゆめ会議	宮城県大崎市	清水 博	東京大学名誉教授・生命化学	温泉と湯ー<いのち>の居場所は生きている	平成24年7月2日
	講演内容			研修成果		
現代社会は、競争原理が主流となっている。自然会の生き物たちは一見弱肉強食の競争原理のように見えるが、実は一人勝ちはしない共存原理で生きている。人間だけに<いのち>があるのではなく、その居場所にも<いのち>がある。この二重生命システムにおいて<いのち>の世贈循環が行われなければならない。温泉に包まれるとき、地球の世贈循環が生み出す他力により、自己がいた競争世界の「いま、ここ」が共存世界の「いま、ここ」へと開かれてゆく。			参加者数:23名 そもそも湯治場は観光地と違い「場」という言葉がつく時空間である。我々には以前より、観光的な名所や楽しみの提供というより、湯治場という場において人々がひととき日常から離れ、お湯の力や人々とのふれあい、土地の自然によってその心身を再生させていた経緯がある。今回、清水先生の講演を聞き、湯治で人々が心身の再生をしていたのは、地球との世贈循環が行われていたのだとわかった。また、さらに無条件に地球から世蔵される温泉に対して我々湯治場の人々は何を地球という<いのち>の居場所に与贈するかも問われた。			

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
22	阿寒町ふるさとづくり推進会議	北海道釧路市	星 則光	日本料理家	タンチョウ特別天然記念物指定60周年記念事業 阿寒の食材を使用した料理の講習会	平成24年9月21日
	講演内容			研修成果		
主に地元の食材(肉、野菜など)を使用し、50℃のお湯で洗う事で鮮度保持、日持ちが良くなる等の効果を実証し、それらの食材を低温スチームや真空調理等の技法で扱う事で、食材が元から持つ、うま味を引き出し、今までに無い味わいを出す事が出来るという事を、講師の長年の経験談の講演とともに、参加者の目の前で実践して頂いた。					参加者数:86名 参加者の中には、主婦も多かったが、阿寒湖温泉のホテル関係者や、青果物を扱う商店、業界の関係者も多数、来場して頂き、皆が講師の講演内容に大きな興味を抱いて頂いた。 今後、職場などで今回の講演内容を活かして頂けると確信している。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
23	奥但馬おじろ塾	兵庫県香美町	①青木 勝 ②高野 誠鮮	①NPO中越防災フロンティア長岡 副理事長 ②公務員	防災とその心構え	平成24年7月14日
	講演内容			研修成果		
①防災とその心構え 新潟県山越村復興プランの作成は災害に対する心構えがない中で災害が発生した。復旧にはまず地域産業と人が生活できる為のライフラインの復旧が急務である。棚田復興は農業再生ではなく生業としてのベースが棚田であり棚田の持つ鯉池が機能しなければ成り立たない。地震規模から見て被害が少ないのは耐震構造物が幸いし、建造物の倒壊を免れた事が人的被害が少ない要因である。全村避難が進んだ事の要因として、合併事前協議が進んでいた事は避難所確保には役立った。山の暮らしの再生計画は伝統的(圃場、養鰻、牛、出稼)な暮らしの再生と地域コミュニティの再構築。米国在住者からのアルパカ寄贈を受け、癒しや毛加工など来訪者も増加、定住人口の拡大ではなく地域の活動人口の確保が今後必要不可欠である。 ②限界集落からの脱却ー誰でも何処でも出来る地域の活性化 石川県羽咋市神子原地区の挑戦、過疎高齢化率54%予算60万円、担当職員1.5人(郡掾されて1.5次産業)高齢化率は会議の回数や予算額では減少しない。既存の血脈には新しい血液(企業家精神)を送らなければならない。先進地の成功例ではなく、失敗例こそが手本である。 理念に基づいて行動する。 地域へ他府県からの移住を増やす。 対処療法として、基本戦略はブランド戦略(気象衛星を使った土地分析情報、誰が食べて美味しいかと言うか)、過疎集客戦略(外部からの若者受け入れ)、メディア戦略(外国人特派員プレスセンターなど)、地域にある伝統的行事や儀式と連携させてストーリー性を持たせる。失敗を恐れず赤字を考えないで黒字にする為の努力をする。戦略的作物の形成、生物の多様性ある農産物の育成が地域を救う。					参加者数:93名 ①阪神淡路大震災を経験し、被災者や被災受け入れなどの経験を持っている聴衆参加者であるが山間部(山越村)では地震などの災害を予期していない多くの人達も海岸部での現在地標高指標の設置などを行政に訴え、地域の災害に対する見直しを迫り、8月26日の一斉防災訓練には住民指導による訓練(土嚢、初期消火、人名救助搬送など)が行われました。 ②最も身近な地形、中山間地での少子高齢化、農業所得の低下、等々全国の7割を占める過疎地を抱える共通の悩みを高野氏の講演は目から鱗で写った。発想もさる事ながら語学力が必要条件を満たす、その為にも発想転換講座を今後の研修会等に入れる必要がある。 雨後の竹の子状態で単に米のブランド化や野菜の直売所開設はとくべつな集客場所や施設が左右するのではなく、産物の成分分析、地域特産物の物語、情報発信の仕方などを地域住民間での話し合いと地域リーダーがイニシアティブを発揮すればまだまだ生き残れる。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
24	宮ノ前地区愛護隊	岡山県浅口市	①内田 詔子 ②難波 栄子 ③本井 秀夫	公益社団法人柳井広域シルバー人材センター(金魚班)	宮ノ前笑楽公(金魚提灯づくりで笑顔づくり・地域づくり)	平成24年11月23日 平成24年11月24日
	講演内容			研修成果		
山口県柳井市の民芸品「金魚提灯」の製作を、柳井シルバー人材センター(金魚班)の講師の方3名により、地区住民51名が2日間に分かれて、笑顔で楽しく会話しながら製作受講しました。					参加者数:51名 製作開始までは、上手にできるだろうか等心配する人達が多かったですが、笑顔で会話しながら製作し、出来上がった作品を各家庭に持ち帰り「可愛い」、「この金魚提灯、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、私が作ったんだよ」等、笑顔と会話が以前にも増したように思います。 受講者からは、「先生来年も教えるに来て下さい」、「可愛い民芸品が柳井にあることを初めて知りました」、「本当に楽しく製作できました」など感謝の声もあり、大変有意義な企画になったと思います。 今後は、研修成果を生かし、近隣の地域へ製作指導に伺うことで、笑顔と会話があふれる家庭・地域を増やしていきたいと思えます。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
25	市民団体 島人	長崎県五島市	①林 弘樹 ②前田 剛 ③武原 由里子 ④渡司 陵太	①映画監督 ②対馬市島おこし協働隊 ③岐崎こども劇場 ④長崎みなと大学設立委員	映画「ふるさとがえり」から学ぶ“ふるさと”活性化	平成24年7月28日
	講演内容			研修成果		
第一部では、県内各地で地域の実情にあわせた活動を行って、様々な課題の解決に取り組む3名の講師が、その活動や想いを講じた。 対馬の前田剛氏は、都市部の人材招致により人々の交流を促進して、地域の担い手とする人材育成の手法を紹介。 彦岐の武原由里子氏は、これからの地域を担う子ども達に地域文化の素晴らしさを引き継いでいくことが重要と考え、子どもが楽しみながら地域を学べる活動を紹介。 長崎みなと大学設立準備委員の渡司陵太氏は、地域活性化にはそれにかかわる市民を増やすことが第一と考え、「長崎みなと大学」開学に向けて尽力。 第二部では、映画「ふるさとがえり」上映会&林監督トークショーを実施。トークショーでは映画を通じて観客に考えさせる様々なポイントを紹介。 第三部では、気象予報士 渡司さんによる親子お天気教室を開催。地元五島氏での天気・災害・予報のポイントなど小中学生の興味を掘り起こす楽しい教室を開催。					参加者数:100名 地域づくり実践報告会では、参加者に県内各地域で行われている地域づくり活動を知る機会を与え、また既に活動している有志には新たなヒントを与えるものとなった。 本講演には市内高校生も多数参加し、活動について積極的に質問を行っていた。 猪被害に対する活動では、猪の皮を活用した特産品開発などが紹介され、同問題に直面する市職員の参加者も熱心に質問する姿が見られた。 「ふるさとがえり」上映会後の講演では、映画を見て感じたことや思ったことを観客が発言し、それに対し監督が別側面の見方を紹介するなど、映画を教材とした観客とした観客参加型のディベート的な学習の場もなった。 総じて参加者に、地域づくりについて考える場と提供し、また同じように地域づくりに興味を持って参加した人達の意見を聞くこともできるなど、五島市内の地域づくりネットワーク形成のための第一歩とすることができたと考える。 最終日のお天気教室では、気象予報士の仕事の紹介から入りただ天気予想するだけの仕事ではなく、人の財産、生命を守る大事な役割がある仕事だと知る。また授業では実験を織り交ぜ、雲のつくり方、生命を守る大事な役割がある仕事だと知る。また授業では実験を織り交ぜ、雲のつくり方、気圧の仕組み、風力の威力など親子が楽しんで真剣に学べるイベントとなりました。参加された保護者からは「夏休みの自由研究に即使用できる!!」など参加したことへの満足感のご意見を頂戴できた。毎年夏休みの恒例イベントとして行ってみたいと思っています。	

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
26	七二会住民自治協議会	長野県長野市	藤井 恒	日本チョウ類保全協会代表理事	アサギマダラ蝶に関する講演会	平成24年7月25日
	講演内容				研修成果	
	<p>最初に、蝶類全般並びに近隣(準高齢地帯)に生息していると思われる蝶類の生態系・生息地などにつき詳細な説明がありました。</p> <p>その後、アサギマダラ蝶の一生に係る説明をされ、特に、マーキング調査による飛翔距離の問題について、具体的な事例からのお話がありました。又、実際にマーキング調査をする場合の時期・方法・注意事項などの説明がありました。</p> <p>質疑応答の中で、アサギマダラの飛翔距離について、又、生きる為とは言え、長距離移動の必要性についての質問が多く出されました。</p>				<p><b>参加者数:71名</b></p> <p>講演会終了後に、小学6年生全員から、先生への御礼を含めて感想を言ってもらいました。毎日見ている蝶に、飛翔距離も含めて、そのような生態がある事に様に驚いていました。子供達は、特に、蝶の食草の「フジバカマ」を定植しており、今夏に予定しているアサギマダラ蝶のマーキング調査に大きな期待を抱いているようでした。又、七二会を「アサギマダラ蝶の里」にするべく、荒廃地にフジバカマを定植する事が必要との認識で、参加者一同が一致しました。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
27	釧路地方の地名を考える会	北海道釧路市	村崎 恭子	(財)日本語教育振興協会調査官	釧路地方の郷土史と、アイヌ語地名について学習	平成24年9月8日 平成24年9月9日
	講演内容				研修成果	
	<p>9月8日(土)は、道内や東北地方に点在するアイヌ語地名「インカルウシ(見晴台)」にかかるオリジナルポイントの探索と、それが地名や人名になった状況を9月9日(日)は、明治10年代に当市の駅裏から一帯に入植した鳥取藩士たちが、湿地帯と付近の川による度重なる洪水に苦しめられ、3年目にはそのほとんどが入植地を放棄し離散していった経過と、入植地のアイヌ語地名を、それぞれ学習した。</p>				<p><b>参加者数:55名</b></p> <p>しばしば地名が人名に転訛していくように、アイヌ語地名もまたまるで和語のように巧みに音訳されていった(インカルウシ⇒五十嵐)(ヌタ⇒新田)例などを認識、確認した。</p> <p>鳥取藩士が劣悪な環境の入植地をあてがわれたのは、当時の国では現状をよく認識していなかったこと、徳川家の親藩として鳥取藩が維新の戦役で頑強に薩長に抵抗したことなどもあったのでないか。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
28	オロロン・バルーンアート・サークル	北海道留萌市	佐佐木 絵里沙	風船の魔法使い株式会社代表取締役	笑顔の贈り物バルーンアートで元気を～留萌管内を感動と笑顔あふれる地域にしよう～	平成24年10月13日
	講演内容				研修成果	
	<p>当日は佐佐木絵里沙氏の講演90分とワークショップ120分の2部構成で行った。</p> <p>講演は絵里沙氏の様々な経験や紆余曲折を経てバルーンアートと出会い、いかんとしてバルーンアーティストになったかという話から始まり、現在の活動内容からは、特に「風船の魔法使い学校」についての話があり、バルーンアートに対する想いや「バルーンアートは、お互いを笑顔にする力がある。バルーンアートをツールとして世界中を笑顔にしたい。」と述べていた。また、留萌管内の活動を高く評価し、バルーンアートが普及することで笑顔があふれることで、留萌管内が一層活性化することについても述べていた。</p> <p>講演の後のワークショップでは、初めてバルーンアートを体験する子どもや高齢の方も大勢おり、絵里沙氏やオロロン・バルーンアート・サークルの会員の指導の下、剣や花などを作った。また、10人1チームで協力し、バルーンでできたアーチを作り、記念写真を撮るなどしてバルーンアートの楽しさを実感し、笑顔で帰って行った。</p>				<p><b>参加者数:103名</b></p> <p>今回の講演会及びワークショップでは、小さなお子さんから高齢の方に至るまで100名を超える幅広い年齢層の方々に感動と笑顔をもたらすことができました。</p> <p>また、講演会の目的である、笑顔を広げて人を引き付ける魅力であるバルーンアートの技術・ノウハウの取得はもちろんその楽しさや醍醐味を参加者に感じていただくことができ、バルーンアートというツールを通じた地域交流の輪を広げることができたと考えております。</p> <p>今回の講演会とワークショップを実施したことが、人口減少や過疎化、景気低迷により疲弊しているこの地域の活力を取り戻すことができる良い契機になったと考え、今回の成果を活用しながら今後も地域活性化のためにさらに精力的に活動していく予定です。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
29	三雲学区まちづくり協議会	滋賀県湖南市	①春風亭 昇太 ②中井 均	①落語家・近江お城大使 ②滋賀県立大学准教授	第6三雲城址 東海道ウォークと春風亭昇太おも城斬	平成24年10月24日 平成24年10月25日
	講演内容				研修成果	
	<p>出席者はスタッフも含め満席(約400名)の参加がありました。</p> <p>研修会は二部に分かれ、一部では昇太師匠の「おも城斬」で師匠が中世の山城に興味を持った理由や朝から回った山城についておもしろく話された。二部では中井先生、谷畑湖南市長の3人で三雲城址の歴史や魅力、又今後の保存、まちづくりについて対談された。</p> <p>又、一部と二部の間に地域の里山と文化財を守る会の活動報告とまちおこしで始めた甲冑姿と鉄砲隊を披露しました。</p>				<p><b>参加者数:400名</b></p> <p>午前中に三雲城址を探訪し(約130名)、午後三雲城址について、昇太師匠の話や3人の対談、又地域の活動などを聞いていただき、参加者に改めて中世の三雲城址を知ってもらった。特に枳形虎口の石垣は文化財としての評価も高く、湖南市や地域住民も今以上に保存と探訪のPRが必要なことを認識しました。対談の最後には「春風亭昇太も来た三雲城址は猿飛佐助の生地でもあった」などで締めくくった。</p>	

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
30	こにゃん支え合いプロジェクト推進協議会	滋賀県湖南市	①中川 修治 ②斉藤 純夫 ③島谷 幸宏	①NPO法人市民ソーラー宮崎 副代表 ②ウィンドコネクト(株) 代表取締役 ③九州大学大学院工学研究員 教授	「自然エネルギーは地域のもの」 太陽光、小水力、風力などを最大限に活用し、地域経済の自立・循環・活性化を実現する研修会	平成24年9月1日 平成24年10月21日
	講演内容			研修成果		
<p>①太陽光最大活用セミナー(中川先生)自然エネルギーのかつようにあたっては、地域内での循環が重要なポイントとなる。太陽光発電は、夏の暑い時期のピークカットに大きな効果を有する。市民共同発電の仕組みは、地域・市民が資金を出し合い、共同して自然エネルギーを利用する方法として、長い歴史を有し、地域活性化に大きな効果をもたらしてきた。</p> <p>②風力最大活用セミナー(斉藤先生)全国の先進的な風力発電の事例を紹介しながら、地域の合意をどのように取り付けて、風力発電事業を行うのか、が極めて重要な課題となる。地域活性化にとって、風力の活用も大きな可能性がある。ヨーロッパの事例では、風力発電施設を地域の市民が所有し、発電の配当などのメリット・インセンティブを付与することによって、持続的に地域と共生した電力事業を営んでおり、参考になる。</p> <p>③小水力最大活用セミナー(島谷先生)九州や四国で実施している集落と一体となった小水力発電の実験および事業化の取り組みを紹介。その中から、具体的に小水力発電の実験および事業化の取り組みを紹介。その中から、具体的に小水力のメリットとして、メンテナンス等の地域雇用が生まれること、太陽光や風力と異なり安定的な発電が可能であること、今後の発電機器等の改良等により採算性が向上する余地が大きいことなど、ご説明いただいた。また、湖南市における地図上の小水力設置可能性の診断を実際に行っていただいた。</p>				<p><b>参加者数:100名</b></p> <p>①太陽光発電セミナーを通じて、家庭用・事業用・メガなど、社会で注目されている太陽光発電の仕組みを、多くの市民が理解するとともに、それを具体的に進めるための意識啓発ができた。また、湖南市における市民共同発電所の取り組み等にむけた参画意欲も高まり、実際の地域事業の実現・地域経済の活性化に寄与することができると考えられる。</p> <p>②風力セミナーを通じて、地域と一体となった自然エネルギー事業の展開が必要不可欠であり、外部専門家のアドバイス・支援を受けながら、地域の担い手が事業に取り組むことが重要であるという認識が共有された。メガソーラーやメガ風力など、外部資本が入ってきて、地域の自然エネルギーのめぐみを収奪する構造は大きな問題を抱えていること、そしてそれを克服するための方法として現在計画中の市民共同発電の取り組みが有効であることが共通に理解された。</p> <p>③小水力セミナーを通じて、湖南市における小水力活用の期待が大いに高まった。また、ため池を使った自然エネルギー事業や簡易・小規模の小水力機器を活用した地域エネルギー事業の可能性など、地域活性化に繋がる様々なアイデアが出されたこと、参加者の小水力に対する関心・意識が高まった。</p>		
31	標津の歴史と文化を知ろう会	北海道標津町	平出 美穂子	福島県立テクノアカデミー会津観光プロデューサー学科講師・会津食文化研究家	標津と会津をつなぐ食文化の歴史発信事業	平成24年9月22日
	講演内容			研修成果		
<p>料理教室では、町内の飲食店関係者、料理サークル会員等12名を対象に、講師考案の会津風料理5品の調理を行いながら、会津の調理技術を学んだ。特に江戸時代に北海道から会津に送られていた魚貝類の乾物を、柔らかく戻して食べる技術を重点的に学習した。</p> <p>講演会では、江戸時代末期に標津が会津藩領となった頃に発達した会津郷土料理について、史・資料を提示いただきながら、解説いただいた。特に江戸時代の文久年間における新潟港に荷揚げされた北海道の産物量の推移を基に、会津藩による新潟港に荷揚げされた北海道の産物量の推移を基に、会津藩による蝦夷地経営規模の変化を推移し、同時期に起こった会津郷土料理の発展との関連に触れ、両地域の深い繋がりを指摘した。</p>				<p><b>参加者数:34名</b></p> <p>講師考案の会津風料理5品を扱う料理教室を通じ、標津の食材を基に発展した会津郷土料理の技術が、講師考案の会津風料理5品を扱う料理教室を通じ、「郷土料理の里帰り」として参加者に伝えられた。また講演会では、これまで標津町民にあまり知られていなかった、標津と会津との関わりが参加者に伝えられた。今回の事業を通じて講師により伝授された、会津風料理5品は、日常手に入る食材を使用したものであることから、町内の一般家庭や飲食店での応用が期待され、「かたち」としてまちに成果が残ることが予想されます。</p>		
32	EMエコクラブみやぎ	宮城県石巻市	田中 佳	医師	病院に頼らない健康の考え方	平成24年9月29日
	講演内容			研修成果		
<p>長年、救急医療に携わり、脳卒中で後遺症を残して社会から離れてしまう患者さんを目の当たりにし、まずは健康管理を自分でしっかり行わなければならないと考え、自然治癒力の必要性を認識しました。そして免疫力を高めるには、腸内細菌を善玉菌優位にすることが必要であり、「食」の重要性を強く認識しました。さらに、本当の医療とは、病気の予防にあるという結論に達しました。また、心身共にストレスを受け続けると不健康になるため、ストレスを発散させることも極めて大切であります。</p> <p>「病気になるれば病院に行けば良い」という安易な考えを改め、よい食生活を心がけ、楽しい生活でストレスを発散させ、心も身体も元気になるよう努めました。</p>				<p><b>参加者数:120名</b></p> <p>私たちは、具合が悪ければ病院を受診することを、当たり前のように思ってきました。しかし、先生の講演を聴講し、医療との付き合い方、病院や薬に頼らずに生きること、病気になる身体をつくることの重要性を強く感じました。本当の健康とは何かを改めて考え、「食の重要性」や「規則正しい生活」をすることが基本であることを痛感しました。</p> <p>大震災から1年半を経過した当地域では、体調不良を起こす人が多くいる中、この講演会を通して、聴講された方が、自分の健康は自分で守るようになり、医療資源が震災前よりも乏しくなった中でも健康に暮らして行く方法を学ぶことができたほか、講演会を通じて被災者同士が知り合い、地域のつながりの形成にも寄与できたと考えます。</p>		
33	石垣島エコクラブ	沖縄県石垣市	楠山 忠之	文化学院映像コース講師	伝統芸能と歴史との関係を活かした地域間交流における活性化	平成24年10月20日
	講演内容			研修成果		
<p>地域のイベントと一緒に協力し住民及び子供達に対して、かつて八重山諸島がアジア大航海時代のような位置にあったかを前段に説明し、宮良村に伝わる大城師番と名馬「赤馬」の絆が現代社会において教訓として伝承されていることを知ってもらいました。また、アジアの国交貿易の港として、八重山諸島と琉球の関係さらには江津藩に江戸幕府との政治関連がいかにグローバルに展開されていたかを講話いただきました。</p>				<p><b>参加者数:37名</b></p> <p>宮良村に伝わる「赤馬」が琉球王や島津藩そして江戸幕府に鳴り響いていた事は、八重山諸島が孤島ではなく海上交通の拠点を抱えていた事が覗える。今後、八重山(石垣島)の歴史背景を文化・芸能と重ねる事によって、環境教育・エコツアー歴史のプログラム開発につなげ交流人口の拡大に因る事が可能となってくるでしょう。</p>		



平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
34	ネットワークはなみ	鳥取県湯梨浜町	若松 進一	人間牧場 主宰	交流・連携による地域活性化の推進	平成24年8月28日
	講演内容				研修成果	
	<p>・青年団、PTA、双海町役場での活動とおし学んだこと、人が知る、知らせる町、語ることでできる地域づくり、人が集まる町づくり、美しい花の咲く町</p> <p>・人は文化の低いところから高い所へ集まる、人を集め定住、よりよく生きるための考えを形に</p> <p>・人づくり運動、10年10人ずつ海外研修、350人マラソンシンポジウム</p> <p>・行動計画、10年で変わる、出来たこと出来なかったことの検証</p>				<p><b>参加者数:47名</b></p> <p>&lt;意見交換、湯梨浜町への提案から&gt;</p> <p>・池と温泉、海に浜に梨やシジミの特産物に恵まれる。県や町が整備した池周辺の公園があるが人の姿が見えない。恵まれすぎてその意味に気づかない。夕日の町づくりに取り組んだが、全国夕日がきれいで何もしない町ばかりだった。一人ひとりが町を愛し正しい方向に実践する。人にしてあげる幸せが増える。自分づくりの集合体が地域づくりである。まずは取り組めるところから、現在計画及び実践中の花づくりのグレードアップから。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
35	青森県レクリエーション協会	青森県青森市	①小久保 信幸 ②後藤 剛彦	(公財)日本レクリエーション協会レクリエーション支援育成チームマネージャー	青森県介護予防活性化リーダー養成セミナー	平成24年9月16日
	講演内容				研修成果	
	<p>介護予防のためには、まず対象者のやる気を育てる必要があるが、レクリエーションは「やる気」を育てることに有効である。</p> <p>レクリエーションの長所は、楽しい活動を通して、効力感を高めることである。</p> <p>ある程度「できる」という自信、見通しが持てないとやる気が出ないので、リーダーは、成功体験を積み重ねられるように多段階にレク活動を展開し、よい交流を引出し、みんなで支えあう雰囲気をつくることが求められる。その技術として言葉や表情のかけ方が重要である。</p> <p>5つのコツ</p> <p>①セーノの合図 ②導入の言葉 ③見本の活用 ④1指示1動作 ⑤試して理解</p>				<p><b>参加者数:36名</b></p> <p>漠然とレクリエーションの効用について理解していた参加者が、今回の研修で説明自体が階段を一段づつ登るような解説を聞き、目からうろこが取れたような実感を持ったように思われた。</p> <p>実技指導では講演の中で強調されていた部分を的確に指導してもらい、すぐに現場で実践できるものが身に付いたようである。特に5つのコツについて繰り返し指導してもらったことは参加者に大きな自信となったものと思われる。</p> <p>県内各地の「介護予防事業」に、レクリエーションを通じて活動する介護予防活性化リーダーのレベルアップにつながるものであり、今回のセミナーに参加したリーダーが知識と自信を持って、現場で介護支援に取組むことが出来ると確信した。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
36	市原NPO協議会	千葉県市原市	菱田 慶文	帝京平成大学助教・人間科学博士	放課後の子どもたちに豊かな居場所を	平成24年9月30日
	講演内容				研修成果	
	<p>小学生による格闘技のデモンストレーションを交え、荒れた中学校の鎮静化に努められた実績や格闘技道場を主宰し少年少女の相談相手になるなどの実践活動から得た教訓、対処方法を紹介し、子どもが安心して過ごせる放課後の居場所の重要性について熱く語りかけた。また、質疑応答では佐久間市原市長も参加して、活発な意見交換を行った。</p>				<p><b>参加者数:58名</b></p> <p>「型破りの講演で実に面白かった。本音、生の話が聞いて涙が出た。学ぶ点が多かった。」等のアンケートが寄せられ、地域教育力、コミュニティの再生、活性化につながる感動に満ちた講演会となった。</p> <p>また、講師の所属する帝京平成大学が、来春から新たに地域の子どもたちを育てる貢献活動を計画しているとの紹介もあり、連携につながる実のある講演会となった。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
37	公益社団法人姫路青年会議所	兵庫県姫路市	東国原 英夫	元宮崎県知事	どげんかせんといかん！！踏み出そう未来へ！！	平成24年9月12日
	講演内容				研修成果	
	<p>人を笑顔にする為に「お笑い芸人」と「政治家」になりたいと子どもの頃から自分自身の未来を描いていた東国原英夫氏は、その未来を実現させる為に行動する事で、実際に「お笑い芸人」としてテレビでも活躍し、宮崎県知事にもなり政治家としても活躍することができました。政治家への転身時には、生まれ育った宮崎をおもい宮崎県知事に逆風の中、立候補を決断し激しい選挙戦を制し見事に第52代宮崎県知事に就任しました。独自の感性と行動力で宮崎県政を改革、特に県産品や観光PR等を通じ県政の発展に尽力した知事時代のエピソードを交え、周りの意見に左右されず信念に基づき行動する東国原氏の熱い想いを語っていただきました。</p>				<p><b>参加者数:1160名</b></p> <p>未来を力強く想い描き、その未来に向かって行動へと移す「まちづくり」に必要な気概を醸成し、このまちの明るい未来を切り拓く郷土愛溢れる「姫路びと」育成の一助となった。また、公益社団法人姫路青年会議所会員のひとづくり、まちづくり運動の資質向上の場となった。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
38	特定非営利活動法人府中アンテナ	広島県府中市	多田 千尋	認定NPO法人日本グッド・トイ委員会 東京おもちゃ美術館 理事長・館長	『赤ちゃんから始める生涯木育』 -東京おもちゃ美術館のウッドスタート-	平成24年9月28日
	講演内容				研修成果	
	<p>日本の木材需給率や森林問題、「植樹から育樹に、育樹から活樹へ」という新しい時代の木育の必要性など、木育を推進する背景や、東京おもちゃ美術館の誕生秘話や製作秘話や製作風景及び活動内容などを、スライドや映像を用い、受講者に分かりやすく紹介。</p> <p>さらに、地産地消で地域産業の活性化と木のファンを底上げするプロジェクトとして、全国で取り組んでいる【ウッドスタート】の内容や実績や、木育は「この栄養補給にも効果がある」という取組事例として、被災地支援や病院、老人施設における木育活動を紹介。</p>				<p><b>参加者数:50名</b></p> <p>今回の講演会はNPO法人府中のアンテナが取り組む【木育プロジェクト】の第一段として開催しました。「木育のまち府中」「木のおもちゃのまち府中」を目指すために木育に取り組む意義を共有し、官民及び子育て従事者、ものづくりメーカーが一体となることを目的の一つとしていた。その意味では受講者から「木のおもちゃをつくらう(メーカー)」「一緒にやりましょう(子育て支援施設)」という声を多数いただき、受講者の一体感が醸成出来たことは、今後のアクションに繋がる大きな成果になったと言える。</p> <p>また、多田講師との出会いは何よりも大きく、受講者にとっても主催した本法人にとっても「木工のまち府中」として長年培われてきた技術や思いを通じて子育てや産業活性化に繋がる光になったと言える。</p>	

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
39	まちづくり倶楽部こまっち	石川県小松市	松宮 義仁	マーケティングプランナー	FaceBookでまちづくり	平成24年9月30日
	講演内容			研修成果		
	<p>Facebookを中心としたソーシャルネットワークサービス(以下SNS)を活用し、情報発信を行うというテーマでの講演をしていただきました。SNSは一時のブームから社会インフラ化されてきており、それを活用することは、地方でのまちづくりをはじめとした地域活動に関しても、全国、全世界に発信することができる。地元の魅力ある歴史や街並みなどの文化遺産、イベントや催事などの集客などにも活用でき、それを使うための技術的な指南も含め講演していただきました。講師の先生と講演修了後もSNSにて関係性を継続しています。</p>			<p><b>参加者数:12名</b> インターネットの動画配信を行っているので、SNSの活用は非常に重要なテーマです。これまでも利用していましたが、松宮氏の話を聞くことによって様々な手法を学ぶことができました。また、参加いただいた方々ともSNSで継続的に交流することができるようになり、「まちづくり倶楽部こまっち」の活動を知っていただく良い機会にもなりました。今後まちづくりをテーマに活動するために、参加者全員が積極的にSNSを活用し、活動の輪を広げていきたいと思っています。</p>		
40	特定非営利活動法人なわ文化芸術能推進協議会	兵庫県西宮市	①福井 栄一 ②小野寺 竜一 ③石井 保彦	①文化評論家 ②能楽師 ③能楽師	能楽「難波」についての講演「王仁さんから太閤はんへ」 能楽体験型ワークショップ	平成24年9月2日
	講演内容			研修成果		
	<p>古事記編纂1300年に当たり、古事記に記された神話から現世へ移り変わる中で特に天孫降臨以降、仁徳天皇即位にまつわる王仁博士の役割や難波宮での善政にふれ能楽「難波」との関わりを紹介した。また小野寺・石井両師を中心に能楽師によるお話や、お客様に舞台上がっていた能楽の楽器に直接触れるなどの体験型ワークショップを行い、普段経験することのできない貴重な機会を提供した。</p>			<p><b>参加者数:100名</b> 古事記で語られる神話時代からのつながりの中で首都だった大阪が語られていること、それが能楽として永く語り継がれていることから大阪の歴史の深さ、豊かさを伝えることができた。講演で得た知識を実際に能の上演で確認してもらうことができ、世界無形文化遺産でもある能楽を身近に感じてもらうことができた。</p>		
41	おとくらプロジェクト	滋賀県多賀町	①岡村 博之 ②岡田 健太郎 ③白谷 仁子	①実業家・地域活動家 ②音楽家・地域活動家 ③音楽家・社会教育委員	音楽のまちづくりを語る講演会とシンポジウム	平成24年9月8日
	講演内容			研修成果		
	<p>「音楽」による地域活性化について、行政、地域、大学様々な立場から考え、提案することを目的として、企業メセナ、地域活動、社会教育活動に係わってきたゲストによる講演会及びシンポジウムを開催した。造り酒屋の酒造を利用し多目的スペース「蔵しっく館」として音楽家ほかのアーティストに開放する取り組みとこれからの展開について基調報告を受けた後に、滋賀県内外のコミュニティスペースを中心に地域活動を展開するシンガーソングライターと声楽家及び主催者として参加した2名の学生によるシンポジウムを開催した。音楽で地域を元気にする、世代間の交流を促進することの可能性について、体験とおとした報告と意見交換はあった。</p>			<p><b>参加者数:80名</b> 滋賀県湖東地域では、酒蔵や古民家を活用し音楽をとおした地域の活性化に取り組む事例が増えている。基調講演者の企業がある豊郷町は、旧豊郷小学校が若者世代に人気アニメ「けいおん」の舞台となったことから、商工会青年部を中心に「けいおんのまちづくり」を展開し、成功を収めている。中山道で結ばれる彦根市高宮町で活動する学生たちの「おとくらプロジェクト」もそうした中から同じ路線として立ち上がり、音楽によるまちづくりの可能性を地域と共に楽しみながら追及している。シンポジウムの2名のゲストからは、「おとくら」のコンサート活動の魅力と今後の期待が述べられ、今後の活動への自信と新たな手がかりが与えられた。</p>		
42	鳥居本お宝発見隊	滋賀県彦根市	①奥田 裕久 ②松原 豊	①地域リーダー ②写真家	オンリーワンのまちづくり実践講座 「自然満喫楽しい田舎暮らし」講演会とシンポジウム	平成24年9月30日
	講演内容			研修成果		
	<p>中山道宿場町鳥居本の地域資源を再発見し、魅力あるまちなみや暮らしの情報をいかに発信するかをテーマとして、三重県津市美里町で地域イベントを次々に企画し、運営する「サルシカ隊」の中心メンバーを講師に招き、鳥居本のまちづくり活動に対する提案や助言を得た。講演では、「サルシカ隊が行く」のイベントづくりアイデア、「村の記憶」に込められた地域へのメッセージが多数の写真とともに語られた。講演の後、地元で活動する3名が「地域資源としての伝統家屋の活用」「地域の人・文化・暮らしが息づく街並み保存」「地域の安全防災と教育への取り組み」について発表し、ゲスト講師を交えて討議した。</p>			<p><b>参加者数:21名</b> 「サルシカ隊」の活動の特色は、それぞれが仕事を持ち、自立しつつ様々な事業に参画することによって、多様なライフスタイルを追求し、実現するところにある。活動状況は、「あそぶ・ふれあう・くらす」をテーマにしたWebサイトで日々情報発信している。一日30,000件に及ぶアクセスによる発信力は、サルシカ隊構成員一人ひとりのスキルを最大限発揮した結果である。第二部の地元活動家を交えたシンポジウムの中で、講師から「鳥居本における5年間の取り組みは地域に十分定着しており、今後の取り組みを期待している」というコメントを得たが、鳥居本お宝発見隊を中心に地域内外の人々を巻き込みながら活動を展開していく上で、事業内容の魅力アップと情報発信の大切さについて多くの示唆を得ることができた。</p>		
43	男鹿市菅江真澄研究会	秋田県男鹿市	岸本 誠司	上級デジタルアーキバスト	男鹿の丸木舟、八郎潟の潟船、飛島の島船について ～文化伝承としてのデジタルアーカイブ周辺から見えるフネ～	平成24年10月20日
	講演内容			研修成果		
	<p>縄文時代には造られていたと考えられる丸木舟は、全国各地から姿を消し、現在、男鹿市戸賀で使用されている一艘が、日本で最後の丸木舟といわれている。男鹿に住んでいても丸木舟に接する機会はめったにない。今回の講演会では飛島を起点として、飛島が使われていた島船のルーツをたどる講師が、その構造がかつての八郎潟の潟船にあり、さらに、潟船は丸木舟の改良された設計となっていることを紐解いてくれた。飛島の船大工はかつて北海道で屋大工をしており、青森県や秋田県の船を見て廻り、最終的に潟船を参考に島船を考案したとの発表は、参加者にとって新鮮かつ基調な情報だった。</p>			<p><b>参加者数:35名</b> 男鹿の丸木舟が形を変え、飛島にあったことは、研修を通じて知り得た成果だと思う。文化伝承から学ぶ今回の講演では、人間の知恵は世間を見ることによって発展することを教えてくれた。講演後、参加者たちは、講師に対し、丸木舟や他の島船の歴史や用途、他の船と関わり合うことで起こった変化などに関して熱心に質問をしていた。今回の研修は、丸木舟の保存と継承において役立つ内容であり、丸木舟を知らない方々にも、舟の魅力を伝えることができる材料を得ることができた。</p>		

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
44	白山市地域づくり塾	石川県白山市	濱 博一	石川県地域づくり協会専任コーディネーター他	「誰でもできる提案参加型の地域・まちづくりワークショップ」あなたのまちづくり・人づくりへの夢・想いを実現してみませんか？	平成24年10月20日 平成24年10月27日 平成24年11月10日
	講演内容			研修成果		
「住みよい地域づくりを目指しての様々な課題を解決するためのワークショップ技法と、実現できたらいいと思うまちづくり・人づくりのための企画提案とプレゼンテーションのノウハウについての講義」 1日目:問題解決の講義とワークショップ 2日目:企画立案の講義とワークショップ 3日目:企画案のプレゼンに関する講義とワークショップ			<b>参加者数:38名</b> 問題解決の講義では、様々な問題についてその考え方や整理の仕方と、課題解決のための方法を学習しました。また、WSでは、気が付かなかったことや新しい考え方の発見につながりました。 企画立案の講義では、企画書作成のための条件整理と取りまとめ方法について学習するとともに、自分たちが設定したテーマに基づいてアイデア発想法のWSを体験することが出来ました。 プレゼンの講義では、テーマを「中間支援組織設立」に設定した4グループ(中間支援全般、ボランティア、公共交通、商店街)で実際に企画書を立案し、発表を通してプレゼンのノウハウを体得しました。 今回の講義とWSで得た知識と体験は、今後の私たちの地域・まちづくり活動に活かしていけるものと思います。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
45	五箇地区まちづくり協議会	福井県越前市	入谷 朋規	映画監督	ふるさと景観フォーラム ～映画「ヘソモリ」から見た、ふるさと今立とは～	平成24年9月29日
	講演内容			研修成果		
映画「ヘソモリ」は越前和紙の工場を舞台に、現代と幕末をつなぐヘソ(タイムトンネル)の秘密を守るために奮闘する友達同士の友情、ふるさとへの思いを考えさせる映画で、入谷監督の講演でも、大人になっても友達を大事にすること、そして故郷を大事にすることなどが話されました。また、今立の五箇地区の風景や伝統産業である和紙は日本の中でもここにしかない素晴らしい場所であるので、誇りに感じてほしいとの話がありました。 また質疑応答では一般者から「次回作があったら出演するためには?」「ヘソはホントにあるのですか?」「知っている風景が出ていて感動した」などの質問や意見があり、南越中学校の生徒からも「正義のヒーロー役は僕にやらせて下さい」「次の伊賀賀は僕がやりたい!」などなど活発に意見を頂き、会場を沸かせました。			<b>参加者数:500名</b> 講演終了後の中学校生徒の感想です。『私は始め「ヘソモリ」っておもしろいのかあとずっと思っていました。でも見てみると、とっても興味津々になっていました。福井の歴史などストーリーにまとめられてあって、とても面白かったです。私の知っている場所が映画に出てきたり、知っている人が出てきたりしてうれしくなりました。福井中心の映画をたくさんの人たちに見てもらえると思うと、とっても嬉しいです。ヘソを通っているいろんな年に行ってみたくて、心から思いました。私には「ああすれば良かったのに・・・」など、いろいろな後悔があるからです。でもこれをなおしてしまったら、失敗の経験できないなって思いました。今の私は、今の時代、現代を楽しみたいなって思いました。でも、ヘソ通ってみたい。』 今回の講演会を通して、「ふるさとは大切な友達や歴史や街並みがある。このふるさとを大事にしたい」という思いを参加者の心に感じ取っていただけたと思います。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
46	特定非営利活動法人 西表島エコツーリズム協会	沖縄県竹富町	①森山 敦 ②平井 和也	①座間味村エコツーリズム推進協議会理事 ②沖縄エコツーリズム推進協議会理事	エコツーリズム推進法から考える西表島の未来	平成24年11月28日
	講演内容			研修成果		
①慶良間地域におけるエコツーリズム推進に関して、そのきっかけとなったオニヒトデの大発生からサンゴ礁保全の取組、行政と一体となつての協議会の設立、そしてエコツーリズム推進全体構想が認定を受けるまでの道のり、更には地域が抱えている今後の課題などについてお話しいただいた。 ②沖縄県におけるエコツーリズム推進に関する取組の歴史や問題点・課題点、地域エコツーリズムコーディネーターの重要性などについてお話しいただき、そこから西表島で今後期待できる取組の提案としてエコツーリズム推進法と保全利用協定の概要や利用方法についてお話しいただいた。			<b>参加者数:24名</b> 今回のテーマとなった「エコツーリズム推進法」に関して、ほとんどの参加者が「聞いたことがある」程度しか有していなかった。参加者らは、前日に開催した第一部講演と合わせて、①法の概要、②比較的身近な地域でのその法の活用例、③沖縄県全体の取組事例(法やその他の可能性)、と段階を追って話を聞いたことにより、それらを理解した上で、そこから自分たちの地域に今後何が必要なのかを考える機会となったようだ。また、普段あまり一同に会することがない異業種間で、それぞれの考えや抱えている問題などを聞き、意見交換することができたことは、今後の連携につながり、地域協働で島の発展に向けて踏み出す第一歩になったのではないかなと思う。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
47	安藤昌益資料館を育てる会	青森県八戸市	①菊池 勇夫 ②三浦 忠司 ③酒井 久男 ④藤田 俊雄	①宮城学院女子大学教授 ②八戸歴史研究会会長 ③九戸歴史民族の会 ④八戸市市史編纂室長	2012災害の記憶 飢饉に向き合う安藤昌益	平成24年10月13日
	講演内容			研修成果		
安藤昌益の時代に数千人が命を落とした飢饉という大災害があった。また江戸時代後期には大津波による被害があり、これらを歴史の遺産として検証しながら現代に通ずるものを探っていきました。 天災を避けることはできないが、被害を大きくしたり、原因を作ったりと「天災は人災である」という捉え方が理解できた。 供養塔は、寺院や町外れに点在しており、天災の惨状を記録として残した石碑は天災から何年か経ってから世情が落ち着いてから建立している事を知った。 また、各講師の方から提供された資料は、江戸時代から現代に続く災害の記録が詳細に書かれており、言葉だけでなく、リアルに時代をさかのぼる事ができた。			<b>参加者数:108名</b> テーマは真面目で、決して明るくない内容でしたが、100名を超える参加者があり、講演会修了後のフロアからの質問も沢山あり、盛況な講演会となりました。また、昨年の東日本大震災の傷が癒えていない中での「天災」をテーマとした講演会でしたが、飢饉と津波という天災の内容であったので、「減災」についての考え方を歴史の中から学べたという声をいただいた。「天災は人災である」という捉え方により、安藤昌益が自然と人間の共生について説いていた事が参加者の中で共有できたと思う。 また、講演会の記録を資料館のデジタル(ビデオ)ライブラリーのひとつとして紹介していくところである。			

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
48	宿場町枚方を考える会	大阪府枚方市 出口2-6-6	水野 正好	奈良大学名誉教授	歴史講演会「交野が原(枚方丘陵など)に繰り広げられた歴史」	平成24年10月21日
	講演内容			研修成果		
『4世紀頃、大阪湾岸の開発が進む。住吉津などを経て大陸と交流、上町台地に都も置かれた。鉄、馬が伝来し、馬飼などの渡来集団によって淀川沿い枚方、交野に牧が設けられた。この大部分がのちの「交野が原」である。北辺には6世紀、樟葉宮が置かれ、継体天皇が即位した。天王を支えたのはこの渡来集団である。「交野が原」にはのちに皇室の別荘「渚の院」や遊猟地「禁野」、貴族領(藤原氏)があった。なお8世紀、百済王氏が百済寺を建て、桓武天皇も訪れたが、同天王の効祀壇らしき方形が発掘され、今後の研究が待たれる。』といった講演があり、「交野が原」が古代から大きな歴史の舞台となった枚方の重要地であることを教示いただいた。				参加者数:125名 今回、協議会の補助で著名な考古学者、水野正好氏を招くことができた。枚方宿を世に広めるためには、歴史愛好家に呼びかけることが大事であり、今回の講演会で125名という多数の市民等の参加を得て、市民の郷土愛の向上に資するものとなった。さらに、講演会を通じて、広報紙、チラシ、ポスター等で広く本会の設立の趣旨、活動内容を伝えることができ、また東海道枚方宿を愛する市民が増える顕彰の機会となったことは大きな成果である。なお、講演会当日、2名の方が入会されたことも大きな成果であった。		
49	一般社団法人旭川ワエルピーニング・コンソーシアム	北海道旭川市	三浦 詩乃	東京大学大学院新領域創成科学研究科2年	旭川市買物公園の活性化	平成24年10月23日
	講演内容			研修成果		
三浦詩乃氏は、歩行者天国の変遷などを他都市との比較を交えて研究、旭川市買物公園について「現状では4条通り以北がとり残されてしまう」とし、銀座商店街と連携したり、幹線道路では東西の開発・仲通りの充実も必要ではないかと提言した。 この後、パネリストの江口教授(経営学)は「買物公園だけでなく常盤公園までも一つの空間としてとらえ、楽しめる空間にすべきだ」と述べ、鳥居理事長は「徒歩圏内に役所や病院、商店があるのが理想。4条以北は居住地区として確立できれば」とした。				参加者数:56名 40周年を迎えた旭川市買物公園について、都市計画・都市交通の視点からの報告に対し、経営学や建築デザインの観点、さらには現地の事業者たちから熱心かつ切実な意見が交された討論となった。今後、それぞれについて更に議論を深めることで、市民全体が買物公園の将来を展望することが可能となった。		
50	公益財団法人香川県老人クラブ連合会	香川県高松市	①石井 直方 ②川崎 洋一 ③阿部 純也	①東京大学大学院教授 ②日本体育協会公認スポーツプログラマー ③健康運動指導士	平成24年度 ぼちぼちクラブ香川「みんなの集い」 ～地域に健康づくり・介護予防の輪を広げよう～	平成24年11月27日
	講演内容			研修成果		
「スロートレーニングで若返り」と題し、高齢者が元気で長寿であるための筋肉づくりの方法について学び、地域に健康づくり・介護予防の輪を広げようと呼びかけた。 要点は、(1)筋肉づくりは健康長寿の基であり、要介護を引き起こす要因の3割が運動機能、特に筋力低下を指摘、更に、(2)加齢に伴う筋委縮(サルコペニア)の実態を示した上で高齢者の歩幅と転倒の危険性などからその対策の必要性を説いた。そこで、(3)筋肉づくりのキーポイントとして、高齢者の血圧上昇を招かない低負荷強度筋力トレーニング法「筋発揮力維持スロー法」による筋肥大の長期効果が得られることから(4)下半身の筋群のためのスクワット、体幹の筋力のためのグッドモーニング等のスロートレーニング法を補助講師2名をモデルとして指導された。				参加者数:1,006名 スロートレーニングは、常々県下で普及活動を行っているが、その発案者からの直接指導という点もあり、新聞PRなどで開催を知った一般参加者約150名程の増を含めた千人を超える参加者を得ることができた。そして、発案にまつわる高齢期の筋力増強の理論を学ぶことで、高齢になってもトレーニングの必要性をより一層認識することができた。参加者からは、「緩い運動が有効とのこと、老人に取り組みやすくなり入れたい」「衰える体力を回復させるためできるだけスクワットを心がけたい」などの感想が寄せられ、各々、地元でトレーニングを開始(継続)するなど有効に活用し、自らの健康保持・増進を図りながら、健康づくりの輪を広めることに意欲的になり、地域づくりの諸活動が大いに展開できると期待している。		
51	湖東地域定住支援ネットワーク	滋賀県彦根市	①植田 淳子 ②田口 孝子	①NPO法人安心院グリーンツーリズム研究会事務局長 ②農村民泊『星降る高台の家』オーナー	農家民泊による修学旅行生受け入れ事業に関する研修	平成24年11月24日 平成24年11月25日
	講演内容			研修成果		
全国に先駆けて「農村民泊による修学旅行生受け入れ事業」を実施してきた「安心院町グリーンツーリズム研究会」から2名の講師を招聘し、①「安心院方式農村民泊」事業の仕組み(行政・地域団体・農家の連携)についての紹介及び②農村民泊受け入れの実際と課題についての報告を受けた。「安心院方式農村民泊」として事業の普及を図るために、NPO団体の果たした役割、指導する行政側の対応や支援について、20年間に及ぶ取り組みの経過を含め、実際に即した説明、報告がなされた。その上で滋賀県湖東地域における農村民泊について、愛荘町・多賀町・日野町から報告したのち、多賀町内古民家において修学旅行生受け入れに関する現地指導、意見交換会を実施した。				参加者数:40名 ①農村民泊により一般及び修学旅行生を受け入れるための諸手続(旅館業許可・飲食店営業許可・建築基準法・消防法等)について、大分県における指導内容の説明があった。そのうえで滋賀県における農村民泊受け入れ普及のための対応策などについて参加自治体を含む関係者による意見交換を図った。 ②安心院の取り組みから、NPO団体と地域の連携を行政が後押しすることによって事業が軌道に乗ったプロセスについて学ぶべき多くのことがあることを理解した。 ③滋賀県において農村振興課を窓口として農村民泊事業が実施されている中で、日野町の協議体を組織としての取り組み体制、事業実績(年間実績3000泊)、PR体制など注目すべき成果があがっていることについて関係者による情報の共有が図られ、今後の事業可能性についての手がかりを得た。		

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
52	まねびとネット	島根県出雲市	①米田 誠司 ②高峰 博保 ③利根川 真也 ④小畑 絢子 ⑤柳楽 文	①愛媛大学法文学部講師 ②(株)ぶなの森代表取締役 ③NHK松江放送局アナウンサー ④一級建築士 ⑤和菓子屋「なごら長春堂」若女将	持続可能なまちづくり	平成24年11月10日
			<p align="center"><b>講演内容</b></p> <p>(1)事例発表(15分) 鶴鷺コミュニティセンター職員の清水さんが昨年のサミットからのこの1年間の新たな動きをパワーポイントで紹介。Iターン者による古民家カフェ、地区外者による古民家ギャラリー、最近Iターンしてきた3人の紹介など。</p> <p>(2)講演(60分)米田誠司 元由布院観光総合事務所事務局長の米田さん(現愛媛大学講師)に「～持続可能なまちづくり～ うさぎ(鄙)を守り育てる情報発信etc」という演題で、湯布院での取り組みを振り返りながら「まちづくりの在り方」について話を聞き多くの学びがあった。「鶴鷺地区の住民がどのような生業や住家や食や、要するにどのように生きるかを如何に考えていくかが重要である。」そしてこそ米田さん曰く『『東洋のドロブロニク』(クローチアにある世界遺産。登録された旧市街は「アドリア海の真珠」とも謳われる美しい町並み)であるこの地が、魅力を益々放ちつつ持続的に守り育てられていく。』とのことだった。</p> <p>(3)井戸端会議(90分)高峰博保、米田誠司、利根川真也、小畑絢子、柳楽文、(清水、熊谷) テーマは「鶴鷺の魅力伝える」 ①鶴鷺の魅力は何か 全員が鶴鷺のファンであり、各々が自然環境、歴史、建築、町並み、人、食、新たな活動について思いを語った。 ②鶴鷺の将来展望 こんな地域にしたいというビジョンを共有した。 ・住民が生き生きと暮らしている地域、旅人が憩える港まち ・その場にいる人が魅力的なまち ・古民家も活用し、出会いと交流を持続的に楽しめるまち ③魅力を伝えるべき対象とそのねらいは何か(ターゲットは誰か) ・鶴鷺で何かを始めたい人(空き家の有効活用と地域全体の保全の主体を増やす) ・旅人(連泊、リポーター、中長期滞在)(まずお客様が増えることが、新たな事業主体を増やす) ④どのようなことを伝えていくべきか ・まず現場を生活を見てもらう少量でも持続した発信すること(現場に来たくなるような) ・マスメディアに仲間的に関わってもらうこと ・自らができることは何か(地域住民、参会者) 「言いつばなしでなく、ビジョンを共有し、具体的なアクションを行えるようにする」ことを目指そう!</p>		<p align="center"><b>研修成果</b></p> <p><b>参加者数:32名</b> たった240人の地区の中でIターン者が10名を超えてきた。これまでの塩づくり体験、かじか・ホテル観賞、海蛍見学遊覧船などのツーリズムの取組みを成果が大きかったことが改めて評価できた。 山梨県出身で東京の大学に進学しNHKの記者となり、岩手支局を駆け出しに次に松江支局に赴任した利根川アナウンサーが「島根の田舎に行くと、どこの方もここには何にもいい処はないと言われるばかりだったが、ここ鶴鷺だけは違った。こんな処あんな処と教えてもらえた。本当にそのとおり素晴らしい処だった。稀有な処だ。」との意見も頂き元気が入った。 (総括) 今回の研修では、湯布院の光と影を熟知し苦悩してこられた米田さんから「住民がどのように生きるかを考えていくことが重要。」との啓発や「自分たち住民の生活に根を下ろした魅力発信をしていかねば、すぐに商業ベースに食い荒らされてしまう危険性がここにはある。」との警鐘を頂いた。 一方、新たな知見として『東洋のドロブロニク』という皆で共有できそうなシンボルを頂戴し、それを使って更に住民の輪を広げ、コンセンサスの形成に向けた歩を進めることができそうな雰囲気醸成され、開催した手ごたえを感じることができた。 うさぎも観光の切り口で活路を見出すしかないといえども、こうした啓発・警鐘を肝に銘じながら、定住・健康といったフィールドにまたがる鄙の暮らしを守り育てていくことが「うさぎ」のまちづくりの生命線であることを確信することができた。</p>	
53	後藤新平顕彰会	岩手県奥州市	渡辺 利夫	拓殖大学総長・学長	生かそう後藤新平の思想を現代に	平成24年10月20日
					<p align="center"><b>講演内容</b></p> <p>先見の政治家として尊敬される後藤新平伯が残した「自治三訣」について、国家を一つの有機体(生命体)に見立てて分析。「人のお世話をするやう」は社会奉仕、「人の御世話にはならぬやう」は自主自立、「そしてむくいを求めぬやう」は国家奉仕であると指摘。 このことを生命体に見立てた場合、それを構成する細胞を国民になぞらえ「生命体が健全であるよう願うならば細胞である国民一人一人が健全である必要がある」と論じた。さらには、教育者としての後藤伯の功績については「人間は自主自立のためには個人の育成がなければ始まらない。人間には自治の本能もある。新平伯は人間に対して高い信頼をおいていた」と分析、協調した。</p>	
54	千厩町女性団体連絡協議会	岩手県一関市	大滝 博子	人形作家	心の復興支援 ～つながる・えがお 明るく楽しく元気な地域づくり～	平成24年11月2日
					<p align="center"><b>講演内容</b></p> <p>「創作人形への想いを語る」と題し、人形づくりを通じた家族・地域のあり方について次の要旨のお話を聞きました。 ・東日本大震災のボランティアで石巻に行って、命のありがたさ、家族の絆を改めて感じ、被災者との触れあいを機に新作16体を創った。 ・人形づくりは自分さがし、子ども時代の思い出を形にしている。 ・おばあさんがいて、お母さんがいて、自分がある。あなたがいるから自分がある。つながる命を大切にしましょう。 ・相手の立場になり感謝のこころ、笑顔を大切にしましょう。 ・かかあ天下は家庭円満、まるやかな地域の源。女性のリーダーシップで明るく楽しく元気な地域づくりをしましょう。</p>	

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
55	あしたの日本を創る岩手県協議会	岩手県奥州市	中森 まどか	NPO法人コミュニティビジネスサポートセンター事務局長	地域に暮らし、地域をつくる～まちの素材を活かしたビジネス手法～	平成24年10月31日
	講演内容			研修成果		
コミュニティビジネスについて「地域住民の困っていることをニーズに、地域資源(人、物、金、情報など)を活用し、自分たちで解決するやり方」をわかりやすく説明。 構成する要素に、◎市民が主役、◎稼いで継続(事業性)、◎地域課題・資源(まちの素材)、◎ネットワーク、役割分担(中と外)などを挙げ、特に役割分担(中と外)などを挙げ、特に役割分担については「無理のない体制づくりと事業目標の共有化、個々のスタンスを明確にすること。プロジェクトに応じて役割を替えていく必要もある」と助言。その上で、「思い、アイデアを先入観なく、いろんな人というんな場所で話すことから必ず何かが生まれ、開けていくはず」と講演した。				参加者数: 200名 各地域で行われている地域おこし活動。成功している事例もあるが、うまく軌道に乗らず悪戦苦闘している事例も多く見られる。「コミュニティビジネス」の考え方、地域資源・ネットワークの活かし方を改めて学び、コミュニティビジネスについての基本的な考え方、手法を理解することができた。 また、近隣の成功例の紹介により、地域レベルの小さな出来事が大きなうねりになり新たな可能性につなげていく仕組み作り。そして高齢化が進む地域社会活性化の為の活動の一助となった。		
56	当麻町体育協会	北海道当麻町	①菅野 美津枝 ②茂木 英子	①NPO法人日本コーディネーショントレーニング協会理事 ②NPO法人日本コーディネーショントレーニング協会准講師	高齢者のコーディネーショントレーニングを学ぶ会	平成24年10月28日
	講演内容			研修成果		
当麻町の福祉関係者、保健婦さん、総合型クラブの関係者北海道各地から集まる。2時間コーディネーションの理論を学ぶ。 幼児期から高齢者まで楽しく取り組める運動、脳と神経回路刺激する事で自分の体をたくみに動かす能力を身につける。 子供は体力向上、競技力向上、高齢者は転倒予防、認知予防、介護予防につながる。7つの能力(バランス能力、リズム能力、定位能力、文化能力、反応能力、連結能力、変換能力)の視点から観察して、目標に向けて、計画を立てる事が出来る。など東京の集鳴での高齢者のコーディネーショントレーニングの映像を観る。高齢者の方達の生き生きとした姿に感動。実技も静かなBGMで、気持ちもゆったりして、講師の声もやさしくて、高齢者向きだと思った。高齢者自信が自分の体を知る事が大事、トレーニング前の健康チェックが大切、講師のように体が動かなくても、動かそうと思うことが大事。高齢者の場合は一人暮らしも多いので、楽しく体を動かして、コミュニケーションづくりをするプログラムを考えていくことが大事である。				参加者数: 50名 今すぐ実践できるプログラムで、ただ楽しいだけの運動ではなく、理論に基づいたプログラムを行うことによって、転倒予防、介護予防、認知予防効果が期待されます。一人暮らしの高齢者もコミュニケーションづくりをしながら、楽しく運動が出来る。 当麻町体育協会は来年度にコーディネーショントレーニングの実践研究会を立ち上げ、実践研究と学ぶ会で、地域住民の健康で明るく、楽しい生涯を送ってもらえるように実践していきます。		
57	明るい勝間づくり推進協議会	山口県防府市	原田 大二郎	明治大学特別招聘教授・俳優	～人間を育てる教育～	平成24年11月9日
	講演内容			研修成果		
いじめについて関心を持たれたのは、お子さんが中学生の時、学生服が汚れ、数学のノートに「死ぬ、ばか」などと書かれたことから。その時は、親として子どもを守るのに必死だったそうです。何とかしていじめのない社会を作らなければならぬと…。そのためには、子どもがいじめ等の言いにくいことを話やすくする環境が必要だと言う。それには大人であり、親である自分の中から、明るさや温かさを発信することが重要とのこと。 昔は、みんな抜けたように明るかった。今は？先ず、地域から明るくしていきませんか。隣同士が親睦を図るんですよ。「人の心に柔らかさを持つことです。そのためには、まず自分の顔を柔らかくすることからはじめる。」 今忘れがちなやさしくつながっていくことの大切さを改めて感じた講演でした。				参加者数: 60名 いじめについて全国的に社会問題になっているが、もはや学校だけでは解決できない昨今、『地域の子どもは地域で育てる』を合い言葉に、地域が立ちあがり、明るく元気に横(各種団体)の連携を深めながら取り組んでいくことに改めて意を強くした。例えば、『朝の立哨』放課後の見回り隊『防犯パトロール』等、自治会を中心に行っているが、声かけ運動・子どもの観察をきめ細かく、今まで以上に目配り・気配りをしていくことを再確認した。		
58	浅口市コミュニティ推進協議会	岡山県浅口市	①安藤 周治 ②荒木 新一	①NPO法人 ひろしまNPOセンター代表理事 ②金光町佐方地区区長	市内のコミュニティ組織の活性化と情報共有	平成24年12月9日
	講演内容			研修成果		
○講演会「自治・協働の地域社会がジグザグを創る まちづくりとは暮らしの質を高めることであり、今後は①行政の厳しい財政状況、②地方分権の推進、③市民ニーズの多様化、④市民活動の活性化などを背景に、「協働によるまちづくり」へ転換していく必要がある。 まちづくりには、4つの段階(第1段階:連帯感の醸成【イベント、地域行事】、第2段階:地域の課題発見・解決【地域点検】、第3段階:中長期発想の試み【地域計画】、第4段階:地域の自信・誇りづくり【地域の「ものさし」づくり】)があり、段階を踏んで取り組みを進めていかなくてはならない。 また、これからの地域づくりは、地域で小銭をどう回すか、つまりコミュニティビジネスの視点も重要である。 ○実践発表「佐方地区元気に輝く浅口市No. 1地域づくり活動」 平成20年から「佐方地区の未来を語る会」を開催し、住民同士の話し合いによって地域の将来像を描き、地域づくり活動を実践している。地域の祭りを復活させるなど、様々な取り組みを通じて、地域の連帯が生まれボランティア意識も向上した。今後は、次世代への継承を図りつつ、夢を持って地域づくりに取り組みたい。 ○意見交換「地域の困りごと」 「若者の地域参加」や「地区防災」をテーマに意見交換を行った。				参加者数: 32名 講師による講演及び実践発表により、これからの地域づくりに必要な視点とその手法について学ぶことができた。講演の中で出てきた「協働」をそれぞれの主体が実現することで、効果的な課題解決と魅力ある地域づくりが期待できる。 また、地域の困りごとに関する意見交換を行うことで、地域課題と情報の共有を図ることができ、今後の当協議会の事業運営を考えるうえで、非常に良い機会となった。 参加者アンケートからは、「幅広い知識や経験を持った方の講演を聞くことにより、新しいモノの見方や考え方を学ぶことができた」、「協働の考え方が良く理解できた」、「具体的事例が参考になり、今後の活動に役立てたい」等の意見が寄せられた。		

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
59	特定非営利活動法人 芸術村IN 余呉実行委員会	滋賀県長浜市	塩見 直紀	半農半X研究所長	半農半Xの生き方とは	平成25年2月16日
	講演内容			研修成果		
<p>これからの時代の生き方の一つとして半農半Xという生き方があることを紹介して頂いた。これは根本には人は農のある暮らしに少しでも携わることで、大切なものを感じ取ることができるというものである。Xとはその人の持つ天職。人によっては音楽であったり、プログラマーであったり酒蔵であったり多種多様だが、農と天職の割合は別として天職を志すことは、その人のやりがいでなく、その地域にも必要であることを語られていた。これを「生命多様」「使命多様性」という言葉で表現されている。その後、ワークショップ的に自分の型、自分の研究所、自分のやりたいことの棚卸を実施された。</p>					<p><b>参加者数:37名</b> 地元長浜市を中心に滋賀県内から37名の方が参加を頂いた。特に地域づくりを進めておられる方からは、半農半Xの生き方に共感されている方が多く見られたが、質問の中では半農半Xの生き方で生活ができるのかという意見があった。また、実際には(特に都会では)農のある暮らしが難しいのではという話では、塩見先生からは一週間に少しでもいいので農のある暮らしをすることで生き方が変わる、考え方が変わることになることを強調されている。また、台湾や中国でも半農半Xの本が出版され雑誌でも多く取り上げられていることは、日本だけでなく世界的にも共感されている生き方であることを実感されている。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
60	鎮竹林	島根県海士町	林 弘樹	内閣府地域活性化伝道師	地域がひとつになれる“スイッチ”とは ～映画「ふるさとがえり」を通して～	平成24年11月11日
	講演内容			研修成果		
<p>このたびは、映画『ふるさとがえり』の林弘樹監督にお越しいただき、映画『ふるさとがえり』の上映後にご講演いただいた。 ご講演では、岐阜県恵那市が市町村合併を機に映画製作に至った企画背景や、ふるさとや地域の大切さ、人と人のつながりや絆の大切さ、人間の生き方、自然や田舎の風景の美しさや大切さなど映画に込められた想いを中心にお話いただきながら、映画完成までの苦労秘話や、恵那市民が映画製作にどのように関わってきたかなど、映画に関する多岐にわたる内容について、貴重なお話を聴かせていただいた。 また、講演の終盤では、出席した参加者に映画を観た感想や参加者がそれぞれ感じるふるさとや地域に対する想い、これからの地域への関わり方などについて話を聞くなど、講演者と参加者が一緒になってこれからの地域活性化に向けた熱い想いを語り合う場にもしていただいた。</p>					<p><b>参加者数:35名</b> 今回、映画上映ならびに林監督の講演会に参加していただいた海士町民は、年齢が20～40代と若く、しかも行政職員や飲食店経営者、大工、土建業、NPO法人職員といったさまざまな職種の人たちであり、小さな過疎地域である離島の海士町において、これからの地域活動を中心的に担う人たちに集まっていた。 これまでの海士町は、青年団を中心に地域の活性化のためのさまざまな取り組みをおこなってきたが、若年層の減少やつながりの希薄化などが原因で、青年団活動は20年近く休止状態が続いていた。 このたびの講演会を契機として、参加者がそれぞれ地域や人のつながりの大切さを見つめ直し、地域に対する熱い想いや地域との関わり合い方などについて語り合い、想いが共有できたことで、参加者が一体となり主体的に地域活動を進めていく土壌ができあがったと思われる。 その証拠として、活動休止が続いていた青年団活動を復活しようという機運が、本講演会に参加したメンバーを中心に高まり、活動再開に向けて動き出すことになった。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
61	NPO法人環人ネット	滋賀県彦根市	①塩見 直紀 ②西村 健之 ③平居 晋 ④岡田 友美	①半農半X研究所代表 ②レイクサイド・ビジュアル湖のほとりの小さな宝箱～代表 ③建築家 ④架空の店・佐々木文具店主宰	便利な田舎・湖東地域における「半農半X」のすすめ	平成24年10月20日
	講演内容			研修成果		
<p>第一部として『半農半X』の提唱者である塩見直紀さんが新たなライフスタイルの実践を目指し故郷に帰ることになった動機と今後の暮らしについて講演した。その中で『半農』の形(家庭菜園から本格農業まで)と『半X』の形(半工芸、半デザイナー、半ヘルパー、半歌手、半カフェオーナー...)など自分探しの様々な生き方について紹介があった。講演の後、滋賀県湖東地域で『半農半X』的暮らしを行っている4人のゲストがそれぞれの日常についてプレゼンテーションし、講師と対話する形で『半農半X』の可能性、とりわけ『半X』をいかに発見し、行動するかについて語り合った。</p>					<p><b>参加者数:40名</b> 地方の時代の到来と共に、東京や大阪の都会暮らしを経験した人達が、地方の良さやふるさとの大切さに気づき、Uターン、Iターンする社会的な背景について共通の認識が得られた。第二部のセミナートークで湖東暮らしを紹介した4人のゲストはそれぞれがUターン、Iターンの経験者である。彼らの『半農半X』的ライフスタイル紹介からセミナー参加者は、豊かさや幸福の形は様ではなく、一人ひとりの生き方とともに多様に存在することに気づかされた。また、大阪方面からの移住希望者や農園経営者など多彩な参加者からの発言から、滋賀県湖東が『便利な田舎』としての可能性が語られ、移住・交流の促進という観点からも成果のあるセミナーとなった。</p>	

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
62	赤城塾	群馬県渋川市	①池田 隆政 ②角田 俊寿	①群馬県農業協同組合中央会専務理事 ②赤城橘農業協同組合代表理事組合長	TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)は開国か？ なぜ今TPPに参加なのか。	平成25年1月17日
					講演内容	研修成果
<p>第一部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TPP交渉をめぐる議論の過程 民主党が事前協議を開始。たい46回衆議院選で当選した国会議員の半数はTPP参加に反対の姿勢。</li> <li>・TPP交渉参加国はアメリカを始め11カ国で構成されている。</li> <li>・TPPの原則 例外なき関税撤廃と様々なルールと仕組みの統一</li> <li>・農業、暮らしに与える影響 食料自給率の大幅な低下やBSEや残留農薬基準の緩和をもたらす。医療への影響</li> <li>・推進派の主張へ反論 TPPで輸出拡大は困難で、アジアの成長は取り込めず。</li> <li>・まとめ 相互発展につながる貿易ルールの確立が重要。 グローバル社会の中で日本の農業を守り、土地利用型農業の将来像。</li> </ul> <p>第二部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA赤城たちばなの農業 露地野菜では、ほうれん草、ねぎ、コンニャクの生産が多い。 畜産では養豚と肉牛が盛んである。</li> <li>・TPPについて 絶対反対の姿勢。参加により、より安価な農産物が海外から輸入され現在の農業経営が出来なくなる。農業を守るため絶対反対。</li> </ul>					<p>参加者数:43名</p> <p>政府はTPPに関してわれわれ国民に、わかり易く、かつ具体的に情報を提示するべきである。そして、国民一人ひとりがもう一度しっかり熟考した上で、交渉参加か否かの協議に入っていくことがよいのではなからうか。 また、例外なき関税撤廃は輸出を伸ばせる企業には有利かもしれないが、農業をとれば大きな影響が出るのは間違いないということを再認識させられた。 様々なルールや仕組みの統一により、食の安心安全、食料自給率、医療など私たちの暮らしに大きな変更を迫られることがわかった。 今回の研修でTPPへの参加が農業分野にとどまらず、さまざまな方面にまで影響がでることを学んだ。私たちの住む中山間地から赤城塾を始め、その他の各地域の団体等とも勉強会等を通じ、今後の地域づくり活動に役立てていきたい。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
63	特定非営利活動法人 会津地域連携センター	福島県会津市	①横張 真 ②時野谷 茂	①東京大学大学院教授 ②会津大学短期大学部教授	まちづくりと景観	平成24年11月9日
					講演内容	研修成果
<p>【基調講演】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「景観を通じた歴史都市(まち)の読み方・楽しみ方」 東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 教授 横張 真氏</li> <li>・「デンマークにおける景観の保全とその変容: 農畜産物の貿易自由化が郷土の景観にもたらすもの」 コペンハーゲン大学生命科学科デンマーク森林・ランドスケープ計画センター教授 Jorgen Primdahl氏</li> <li>【パネルディスカッション「まちづくりと景観」】 景観資源を生かしたまちづくりの紹介及び各々の景観とまちづくりの考え方について述べた後、会津若松市のこれからのまちづくりに向けた景観のあり方について討論を行った。</li> </ul>					<p>参加者数:100名</p> <p>講演会後に実施したアンケートの集計結果によると、「大変参考になった」もしくは「少し参考になった」と回答した方が講演については86.7%、パネルディスカッションについては86.2%であり、歴史、文化、伝統が息づく会津に住む一人として、景観について知識を得られる場所、考えさせてくれる場所となった。 また、「(何回かにわけながら)今回のお話を伺える場にまた参加してみたい」「景観意識はすぐには成長するものではないので、少しずつ成長させるために、長い期間をかけての景観セミナーやフォーラム等を実施し続ける必要がある」という感想も聞かれ、地域景観に対する参加者の意識の高まりがみられ、会津のブランディングを構築していくうえで、大変有意義な機会となった。今後、今回の専門家の意見を踏まえ、市が取組む施策に対し積極的提言を行うなど、景観という側面からも地域活性化のため活動を続けていきたい。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
64	MOKA.WP釧路モカ女性プロジェクト	北海道釧路市	土倉 玲子	人間関係アドバイザー、行動科学博士、北星学園大学非常勤講師	女性リーダーとしての成功のために	平成24年12月1日
					講演内容	研修成果
<p>自分自身が39歳で大学院に入学し10年かけて博士課程を修了した経験を踏まえながら「年齢は関係ない。目標や夢があれば諦めず行動し続けることが重要」と協働した。夫(享年56歳)のがん闘病記を約3年かけて出版にこぎつけた苦労にも触れ「闘病記を売って当初は全く相手にしてもらえなかった。しかし、後日連絡が来て出版することができた。今はだめでも後になってうまくいくことがある。思い続ける限り願いは叶う」と訴えた。またやりたいことを実現していくためには人とのつながりを大切にすること、とにかく楽しむこと、この3つのことを覚えてほしいと訴えた。</p>					<p>参加者数:15名</p> <p>基調講演に続く第2部で、実現したい目標や夢を具現化するため、キャリアカウンセリングの学識に沿ったアセスメントを実施し同じ目的の同士のグループをつくりディスカッションをするワークショップを行ったが、「前向きに楽しんで生活していこうと思った」「よい刺激をもらいました」「これからの人生や生活をしていくうえで参考になった」などの講演に関する感想や、「楽しく参加できた」「自分たちで工夫して作っていくグループワークに納得させられました」など参加しやすいグループワークに納得させられました。また、「この研修会に参加することにより刺激や学びを得たり、学ぶことの楽しさをあらためて感じた」「釧路を元気にする活動に参加したい」という声も多数いただくことができました。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
65	日光市読書ボランティア連絡会	栃木県日光市	①藤本 ともひこ ②波賀 稔	①絵本作家 ②鈴木出版株式会社 編集部部長 編集長	大人も子どもも読み聞かせでつながろう ～絵本作家 藤本ともひこさん・鈴木出版編集長 波賀稔さんと読もう！遊ぼう！絵本の世界～	平成24年12月5日
					講演内容	研修成果
<p>1部「読もう！遊ぼう！絵本の世界」→子どもたちと一緒に絵本の読み聞かせを聴き、実際に読み聞かせをする際のポイントや、子どもたちの喜ぶポイントを学んだ。 2部「絵本を創る喜び、読む楽しみ」→ボランティア及び読み聞かせに興味のある大人向けに、「絵本の力」「なぜ絵本を描いているのか」「どうして読み聞かせをするのか」ということで、読み聞かせの効果や、ポイントなどについて講演いただいた。</p>					<p>参加者数:80名</p> <p>ボランティア活動に取り組む方、興味がある方が読み聞かせ指導を受け、新たな学びの場となり、絵本の世界のたのしみを体感してもらったことができた。また、読み聞かせ活動を実践している人から直接お話を聞くことで、ボランティア活動に対する理解を深め、モチベーションを高めることができた。</p>	



平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
66	一般社団法人 アイ・オー・イー	熊本県熊本市	新田 時也	東海大学准教授	「食文化」を活用した観光地域づくりの方策-水前寺公園の活性化をにらんで-	平成24年11月27日
	講演内容				研修成果	
	水前寺公園は、細川侯により東海道を模して造園されたといわれている。そこで、水前寺界隈の活性化策として、東海道をテーマとした「食の祭典・東海道サミット」の構想案をお話しいただいた。 一時的なイベントではなく、持続可能な取り組みとして、東海大学熊本キャンパスに観光ビジネス学科が立ち上がることと合わせ、学生と水前寺商店街との連携による観光ボランティア(外国人も対象)、情報発信のアンテナショップの設置なども可能ではないかと考えられる。地元で愛され、憩いの生活空間のひとつとしても活用される水前寺界隈にしていくためにも、「地元で愛される」⇒「地域オリジナルの創造」⇒「観光客の興味をひく」というつながりの展開が今後必要である。				参加者数:15名 「水前寺公園」、「東海道」、「食文化」をキーワードに、大学+地域+民間による協働連携のもと、互いの得意分野を活かしつつ、「地域活性化モデルの構築」を目標にしていくことにした。その具体案として、 ・地域と東海大学熊本キャンパスの学生による水前寺公園内の観光ボランティアの実施計画。 ・地域と東海大学熊本キャンパスの学生の観光ビジネス実践研修の場として、参道商店街の空き店舗を活用したマーケティングや商品展開。 ・水前寺界隈は街中でありながら、湧水、天然記念物など自然に恵まれた場所なので、まちづくりと環境保全の両立を目指していく。 などが考えられる。今後、関係者との連携をとりながらより具体的に進める。参加した方々が、「水前寺」という地域は名所で有りながらも、そのブランド力に気付けなかった点を含めて、「水前寺」ブランドをこれからは活かしていくという気持ちになったこと、そして今後への水前寺界隈の活性化構想が練られたことが、何よりの成果であった。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
67	小樽ルネサンス21	北海道小樽市	米山 淳一	一般社団法人横浜歴史資産調査会常務理事・事務局長	鉄道遺産の保存と活用	平成24年11月22日 ～ 平成24年11月25日
	講演内容				研修成果	
	近年、近代化遺産が注目されつつある中、鉄道遺産の保存活用の機運も高まっている。文化庁も「活用なくして、保存なし」と提唱している。 まちづくりに、様々な形で元気を与えている鉄道遺産の保存と活用の取り組みについても、その考え方、取り組み方、手法などを、世界、日本、北海道での事例を、プロジェクトによる映像により紹介。多くの貴重な鉄道遺産を保存している小樽についても、保存とともに、その活用についてもより積極的に取り組む事を期待したいと結び、聞いている人々に元気とインスピレーションを与えてくれた。				参加者数:60名 講演に続き、小樽市博物館、小樽市の旧手宮線跡の整備等についての取組みについて紹介があり、パネラーから、事前に行われたワークショップでの検討をふまえて、鉄道発祥のまち小樽に遺されている鉄道遺産について、より広く、総合的に捉え、より積極的に取り組むことの必要性について提案があった。結果として、コーディネータから、物的な遺産の保存活用に加え、小樽のまちの発展に大きく貢献した鉄道のもつ、力強く走る、つなぐ、結ぶ、という、鉄道のもつダイナミックな機能的、精神的遺産を、まちづくりの精神に活かす事が必要ではないかと提案された。 終了後、参加した市民や、ボランティアガイド、小樽案内人からも、「鉄道遺産のまち小樽をもっと大切に、守り育てる事の必要性を強く感じた」等々の共感のこえを、異口同音に、熱く聞かされたことは、大きな成果であった。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
68	NPO法人ドリムサポート	宮崎県都城市	森本 登志男	佐賀県最高情報統括監	ICTが拓く未来～クラウド化・ソーシャル化・モバイル化が地域社会にもたらすもの～	平成24年11月23日
	講演内容				研修成果	
	講演いただいた森本氏は2011年度より佐賀県の最高情報統括監に就任し、ICT活用の観点から県庁経営に参画し、県庁や県内の情報化を統括するとともに、ICTを活用した県庁全体の業務改革の推進を担う業務に取り組んでいる。業務の傍ら佐賀県で活動している団体やグループをSNSを活用してネットワーク化。全国各地で地域活性化に関する講演活動を行っている。今回の講演では現在、佐賀県で行われているICT技術を活用して県民生活が便利になっている取り組みや地域産業が活性化している事例を多数紹介。また、森本氏が佐賀県の最高情報統括監に就任する前から、地域づくりをおとて関わってきたさまざまな地域の中で、活性化に成功している所に共通している点や成功できない所に共通している所などの解説もあった。最近のICT分野でキーワードとなっている所などの解説もあった。最近のICT分野でキーワードとなっている「クラウド」「ソーシャル」「モバイル」などをいかに活用し、事業を成功に導くかのヒントもわかりやすく紹介していただき実践的な講演会となった。				参加者数:81名 参加者からは次のような感想をいただいた。「元気な地域に共通していること、事業をプロデュースする際に気をつけること、盛り上げ感、共感の作り出し方、自立的な組織を作る方法・・・を2時間という時間では話きれない内容。ジャストシステム、マイクロソフト公共部門シニアマネージャーを経て現佐賀県CIOの話は、理論と実践のバランスがとれて、泥臭い話もまじったすばらしい講演でした。」等参加された皆さんがそれぞれ感じた事を持ち帰って実践しようというおられたのが印象的だった。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
69	日立女性フォーラム	茨城県日立市	①砂金 祐年 ②西村 ミチ江 ③須田 昭 ④柴田 百恵 ⑤中川 まさ子 ⑥矢板 恭介	①常磐大学コミュニティ振興学部地域施策学科准教授 ②塙山学区住みよいまちをつくる会長 ③久慈学区コミュニティ推進会会長 ④会瀬学区コミュニティ ⑤日立市議会議員 ⑥日立市生活安全課防災対策室長	3・3・3 命を守る あなたはどう乗り越えますか?	平成24年12月16日
	講演内容				研修成果	
	●日立女性フォーラムのメンバーが昨年、「市民目線で防災について提言してほしい」のお声かけに基づいて、今年2月に二件提言させていただいた発表を導入部分で披露。 ●砂金先生より「これからの地域防災～ソーシャル・キャピタルの向上を～」をという基調講演。 (ソーシャル・キャピタルが機能している地区は政策もきちんと反映されているという統計学から導かれる結果があり、震災時にもこのご近所の基礎力の共助がどのように活躍したのか、今後の防災はまさに「3秒・3分・3時間・3日」が大切で、それらを自助・共助・公助でお互いに連携を図っていく体制づくりが求められる。 先月に行われた市とコミュニティでの同時訓練では、それらの連携がなされていた。これからの課題としては、若い世代のソーシャル・キャピタルへの参加と「一時」「収容」避難所の区別を市民へどうしらせていくかということ。 ●震災時に行政の指示を待たずに独自のコミュニティ活動をなされた塙山と会瀬、津波被害をコミュニティで乗り切られた久慈、また山間の団地の住民の方々に声かけて周られたり、行政としての震災対応の話を砂金先生にファシリテートしていただきながら、震災時どのような対応をされたのか、今後のコミュニティについてなどパネルトーク。				参加者数:40名 参加者が少なかつたのが心残りですが、おかげさまで参加された方皆さんが3時間という時間が短く、また足りないと感じられるほど語り尽くせない話題だったようで「とても勉強になった」「為になった」「有意義な時間だった」と称してくれました。また次回にも期待とお声を頂戴していますし、参加者との対話形式でのシンポジウムも行ってほしいとのこと。 昨年の震災よりも前から津波の避難訓練を想定されていたこと、震災時に想定できぬ規模の災害にみまわれたあとのご対応、また現在も継続して若い世代の方々への働きかけや今後の民生委員の方々への対応方針などコミュニティの方々の話はお伺いしていて勉強になり、私達自身、たくさんの方々の気づきがありとても為になりました。 地震災害時を想定しての心構えや日ごろからの自助・共助が大切と参加者全員に認識してもらうことができた。	

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
70	市民活動団体 SMIRING	青森県八戸市	松橋 良紀	NLP・聴き方の達人・著者	究極のコミュニケーションセミナー	平成24年11月24日
	講演内容			研修成果		
<p>・誰にでも一瞬で好かれるラポールの技術とは？(ペーシング)</p> <p>・過去のトラウマを解消＆未来の成功を潜在意識にインプットするには？(タイムライン)</p> <p>・過去のトラウマを解消＆未来の成功を潜在意識にインプットするとは？(リフレーミング)</p> <p>・過去のトラウマを解消＆未来の成功を潜在意識にインプットするとは？(アンカーリング)など</p>					<p><b>参加者数:24名</b></p> <p>誰にでも一瞬で好かれるラポールの技術・過去のトラウマを解消＆未来の成功を潜在意識にインプットする方法・過去のトラウマを解消＆未来の成功を潜在意識にインプットすること・過去のトラウマを解消＆未来の成功を潜在意識にインプットする方法などを学び、自信がつくことによって、コミュニケーションが円滑にできるようになった。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
71	ながの F.C.RAINBOW	長野県坂城町	釜本 美佐子	日本ブラインドサッカー協会理事長	人との絆・夢や希望のかけはし2013ー垣根のないサッカー「ブラインドサッカー」ー	平成25年1月19日
	講演内容			研修成果		
<p>釜本理事長</p> <p>・ブラインドサッカーとの出会い、その魅力、世界に羽ばたく思い、普及活動とその課題</p> <p>・全く視力を失っても受け入れてもらえる居場所があり、スポーツ事業にかかわることで生き甲斐や夢を持ち、ボランティア活動にも従事するファイト</p> <p>・プライベートでは、自己表現(短歌をつくる)にパソコンを活用、耳から中国語を学ぶ前向きな姿勢</p> <p>釜本理事長、葭原、日向 日本代表選手によるディスカッション</p> <p>・笑顔が印象的、前向きで明るく生きらる秘訣は？</p> <p>・世界における日本の現状</p> <p>・日本代表チームの一員として、パラリンピック リオに向けての夢・希望</p> <p>・視覚障害者にとって何を願うか(人との絆・自ら壁をつくらない努力・情報の提供等)</p>					<p><b>参加者数:70名</b></p> <p>参加者から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演内容に感銘を受け、多くの人たちに再度分かち合える機会を、行政としての計画に望む声が聞かれた。</li> <li>・体験に参加した高校生 魅力を味わい、2日目も過酷な練習に取り組み、今後余暇をこの活動に参加したいとの意欲が伺えた。</li> <li>・躍動感ある動き、コミュニケーションの大切さもデモ試合を観戦し驚きと感動を与えた。</li> </ul> <p>チームとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乃木坂チームの日頃の練習内容に体をととして得た充実の2日間、その成果が、従前にも増して練習に凝刺さる感じられ、楽しさがうかがえるこの頃である。</li> <li>・スポ育出前講座にも新たに追加できるメニューとなった。</li> <li>・ボランティア、選手の招請のステップとなった。</li> </ul>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
72	NPO法人山の遊び舎はらぺこ	長野県伊那市	①山上 亮 ②吉越 真	①整体ボディワーカー ②野外保育スタッフ	子どもの体と心の育ちについて	平成24年12月1日
	講演内容			研修成果		
<p>「ココロとカラダふれる育つ」の全体テーマを受けて、前半の講演会では「子どものからだ育て」題して、決められた運動ではなく、生活の中での遊びや体験が自然に動ける体を育てること、親子のスキンシップを通して、からだの感覚を磨くこと、それによって心の育ちにも繋がることとお話いただいた。後半の親子ワークショップでは「家でできる子どもの手当て」と題し、日頃から子どもと触れ合う大切さを踏まえた上で、実際に全体の立場から、親子でできる触れ合い方を大切さを踏まえた上で、実際に全体の立場から、親子でできる触れ合い方を教えていただき、実践してみた。その時その時の子どもの様子をよく見て、子どもの気持ちに合った触れる手当ての仕方を学んだ。</p>					<p><b>参加者数:246名</b></p> <p>一般の親子だけでなく、祖父母世代、保育・教育関係者など、予想以上の多くの方に参加いただき、様々な立場の方が一堂に会して子どものことを一緒に考える場とできた。子どもワークショップや託児を設けることで、子連れでも参加しやすい環境を作っていることが好評で、年々続けての参加者も増えている。会場ではメモを取りながら真剣に耳を傾ける姿が多く見られた。実際に今すぐ目の前の我が子の子育てに実践できる内容の講演であり、ワークショップでの実習もしたこと、親も子も参加でき、共に充実した時間としてよかったという感想を多くいただくことができた。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
73	秋田人変身力会議	秋田県秋田市	①芝山 昌也 ②里村 真理 ③笹尾 千草 ④佐藤 励	①秋田公立美術工芸短期大学准教授 ②ゼロダテアートセンタープロジェクトマネージャー ③コラボラトリー代表 ④ネオ・クラシックカクノダテ！アートディレクター	シンポジウム「アートで秋田を元気に！」	平成25年2月2日
	講演内容			研修成果		
<p>シンポジウムは基調講演、パネルディスカッションの二部構成で行った。第一部は芝山准教授が「アートで地域を活性化～新屋・上小阿仁での実践～」をテーマに講演した。芝山准教授はアートとは、美術館に展示する絵画や彫刻等の美術品だけではなく、その土地の風景、建物、民俗行事等を含むものであるとの考えのもと、09年に秋田市仲小路の空ビルで開催した「ハイブリット@仲小路」、10年に大学の所在地である新屋表町の民家で開催した「大地の芸術祭・KAMIKOANIプロジェクト秋田」についてスライドを見せながら講演した。</p> <p>第二部のパネルディスカッションは、秋田県北部の里村さん、中央部の笹尾さん、南部の佐藤さんがパネリストとしてそれぞれの活動内容を報告した。</p> <p>里村さんは閉店したデパートを会場とした展示会や内陸部の民俗行事等に積極的に関わっていることを、笹尾さんはギャラリースペースを地域で表現活動を行っているアーティストに提供することで、隠れた才能や芸術的思考を市民とともに発掘する喜びを、佐藤さんは東北の小京都といわれる角館の町屋を会場に開催したネオ・クラシックカクノダテ！について報告した。</p>					<p><b>参加者数:87名</b></p> <p>シンポジウムには自治体職員12名を含む87名が出席、翌日の秋田魁新報、北羽新報に掲載された他、U STREAMでライブ中継を行い、多くの県民に広報できた。</p> <p>今回はアートをテーマにした地域活性化の取組について事例を紹介していたのだが、アートに限らず、特定のテーマや新たな発想を地域に持ち込む際には、地元住民の理解と協力が不可欠であることや、理解・協力を得るためには、自分たちがやろうとしていることの魅力をいかにもよく伝えるか、いかに強い思いを持って取り組めるかが重要であると感じた。</p> <p>また、当日出席した商工会関係者から若手アーティストの移住定住による地域活性化策が紹介され、当会議の姉妹組織である「ようこそ秋田移住促進会議」が積極的にサポートすることとなり、シンポジウム会場で活動ネットワークが広がるなど、思いがけない成果もあった。</p>	

平成24年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
74	特定非営利活動法人 時をつむぐ会	群馬県高崎市	片山 善博	前総務大臣、慶應義塾大学教授	学校図書館と知の地域づくり	平成25年2月2日
	講演内容			研修成果		
前半:片山氏の講演。鳥取県知事時代に県内のすべての小・中学校に図書司書を配置し読書推進活動を行ってきたという話をご自身の子育て経験も交えてもわかりやすくお話いただいた。また、民主党政権時代、総務大臣として「住民生活に光を届ける交付金」を発案し日本全国の図書推進活動に大きく寄与されたお話がされた。 後半:飯野真幸(高崎市教育長)と続木美和子(NPO時をつむぐ会代表)と片山善博氏との鼎談形式でそれぞれのお話をうかがった。最後に質問形式で高崎市議の白石議員と上野村図書館司書の武部裕子からこれからの学校図書館にこのお話をどう生かしていくのかという質問が出て、具体的な答えをいただいた。				参加者数:181名 片山氏は、難しいことをとてわかりやすくお話しいただき深く納得することができた。また、後半では具体的に高崎市ではこの学校図書館の問題を前進させていくための方法をうかがうことができた。来年度の学校目標として「学校図書室を活用した教育活動」を掲げることが決まった。そして、司書の横の連携を築き能力向上のために、高崎市民活動センター(ソシアス)内に新たに学校図書館支援センターを設ける考えのあることを教育長が発表した。群馬県内から小・中・高校の学校司書が70人以上にご来場いただき「これから頑張るための勇気をもたらした。」という声をいただいた。		
75	NPO法人アレルギーを考える母の会	神奈川県横浜市	①今井 孝成 ②北岸 忠志	①昭和大学医学部小児科講師 ②大阪狭山市消防長	食物アレルギー・緊急時の対応	平成25年2月23日
	講演内容			研修成果		
今井先生は食物アレルギーの病態などを詳しく説明するとともに、学校や保育所などでアナフィラキシーやショックなどを発祥した場合の対応について詳しく説明した。北岸消防長は、大阪狭山市の教育委員会、消防などの連携について説明し、「医療機関、教員、消防職員の連携体制を構築することが第一歩であり、やがて地域が一体となって、救急車の到着を待たずとしてエピペンが使用できる環境整備に微力ながら努めていきたい」などと話した。				参加者数:321名 申込みは募集の2倍を超える650人に上り、地域の要請に応えた研修会になった。また参加者全員が自己注射薬「エピペン」のトレーナーを、代表者が本物の「エピペン」を使ってみる実習も行った。食物アレルギーによるアナフィラキシー発症の緊急時にも、学校・園、児童福祉に関する全ての方と救急隊との連携を深める地域づくりに、大いに貢献することができた。		
76	太田南地区コミュニティ協議会	香川県高松市	榎原 禅澄	総本山善通寺第五十七世法主 真言宗善通寺派管長	子育て(命の尊さ)	平成25年2月23日
	講演内容			研修成果		
演題『オン ニコニコ ソワカ』 常にニコニコと笑顔で笑う“笑う”“笑い”には、認知予防・血液サラサラ・アレルギー改善・元気になる・脳の血流増進・血糖値が下がる・癒し・リラックス効果・若返りなど様々な効果・力がある。人間、一人では生きてはいけない。人との会話を大切に。会話の中に交流・触れ合いが生まれる。そのためにも、まず自分から声をかけをし、そして、みんなの話相手になってあげる。人生、焦ってはいけない。そして、出来ること出来ないことを分け、自らが判断していくことも大切である。 ソワカとはインドの言葉で“成就する”と言う意味である。笑顔で笑って願いを叶えていきましょう。そして、明るい素敵な毎日を過ごしていきましょう。				参加者数:133名 優しい口調と穏やかな語りの中に笑いを入れている講演に参加者は引き込まれるように聞き入った。笑うことの大切さ、そして笑いがいろんな面やいろんな事を変える事ができる大きな事だと知った。笑顔で子どもたちに接したり、挨拶など声かけすることで、保護者や地域の人たちから大切に接せられ、安心してのびのびと育ててもらいたい。近所の大人たちとの会話から、ルールやマナーを覚えたり物知りになってほしい、そして、自分の命は自分で守る子どもに育ててほしい。子どもたちは地域の宝である。明るい未来、安心、安全な地域づくりのためにも、今日から笑顔を忘れず過ごしていこう。		
77	「元氣塾」親の会	佐賀県江北町	高橋 圭三	松山東雲女子大人文科学部心理子ども学科准教授	発達障がいを持つ子ども支援のためのボランティア講座	平成25年3月24日
	講演内容			研修成果		
なぜボランティアをするのか・相手のためにボランティアをするのではなく、自分を高めるためにボランティアをするという意識が大切である。子どもたちの障害名は同じであっても、一人ひとりが違う困難を持っている。一律の対応では障害を持つ子ども達には合わない。しっかりと子どもたちと向き合い信頼関係を構築することが大切である。また、ボランティアをするにあたって我慢してはいけない。お互いの相性もあるし、困ったことは一人で抱え込まないで周りに相談し、皆で解決策を見出しお互いに楽しめる環境を作っていくことが大事である。ボランティア活動を通し、日々自分自身を育て社会と繋がっていくという意識が重要。				参加者数:16名 参加した学生さんからは、今回受講したことにより、ボランティア活動に対する意識が変わった。自分たちの関わりが、子ども達に与える影響の大きさを思い知った。なんとなく参加していた活動が、自分自身の育ちの場になっている事を知ることができた。等の感想があり、保護者からは学生さんが真剣に先生の話聞いてくださる様子を見て、学生さんの意識の高さが感じられ感謝の気持ちでいっぱいになった。との感想があった。参加者にとってたいへん有意義な講座となった。今後もこのような活動を継続していくことで、地域における住民の理解や活動に参加する者の意識の向上につながっていくことで、障害を持つ子ども達が社会と共存し、自立していくことにつながっていく。		